令和７年度(２０２５年度)
熊本市こどもの未来応援基金助成団体
活動報告書

熊本市　こども政策課

目　次

１．熊本市こどもの未来応援基金について
（１）助成概要 ・・１
（２）基金への寄附について ・・２
（３）ご支援頂いた皆様 ・・２

２．活動報告
（１）広く全般に子育てや児童を支援する活動（スタートアップ枠）
子ども若者保健室～らしく～ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
プレバレーボールスクール熊本 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
助産院メルティングタッチ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
株式会社　スミール ・・・１１
くまもと中央高等学院　中学生講座 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
地域しんぶんどう食堂 ・・１４
碩台居場所づくり委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４
Risa 先生と親子でフォニックス英会話・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４

（２）広く全般に子育てや児童を支援する活動（企画枠）
熊本食育の会 ・・・１５
うえき学習教室 ・・１８
たけみやいもほりファミリー会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
西里校区子育てネットワーク「すいれん」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３
子育て支援サークル・くまもと ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２５
白川小学校親児の会 ・・２７
子育て支援ワーカーズぺぺぺぺらん ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９
Office38 WindBell ・・３１
子育て応援団　とらポッケ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３３
ユニバーサル親子柔道教室 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６
特定非営利活動法人教育支援プロジェクト・マスターズ熊本 ・・・３９
ひご Pecs サークル ・・・４２
HugLink＋kumamoto ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４４
村上直子事務所 ・・・４７
田崎げんきもりもりハウス（社会福祉法人グリーンコープ） ・・・５０

社会福祉法人グリーンコープ 子育てサポートセンターぺぺぺぺらん
みんなの居場所 三里木げんきもりもりハウス ……５２
メンタルサポート研究所グループ熊本シャムロック ……５４
保育者の子育て塾 ……５４
壺川小学校おやじの会 ……５４
はんなり日和 ……５４
NPO 法人こころサポート熊本……５５
はっぴいろーどサポート ……５５
植木寺子屋山東塾運営委員会 ……５５
『Team 延壽院』……５５
ベイビー・マミー・サロン ……５６

（３）こども食堂に関する活動

あきた寺子屋食堂 ……５７
こども食堂 おにぎりく Love……５９
一般社団法人多世代交流スペースミモザ ……６１
こども食堂「寺子屋カフェ」 ……６４
釜ぐみ ……６８
長嶺みんなの食堂 ……７０
縁側サロン竹ちゃんち ……７３
桜木東食堂 陽だまり ……７５
子どもが生きられる世界 ゆりりん食堂 ……７８
こども地域食堂まんまる ……８１
熊本市白山校区社会福祉協議会「白山こども食堂」 ……８３
Yell つながるカフェ……８５
認定 NPO 法人ポピンズくまもと ……８７
一般社団法人こどもキッチンブルービー ……９０
熊本 YMCA ぷらっとほーむ……９２
株式会社　千広 ……９４
元気だモン食堂 ……９４
ちいきしょくどう ……９４
地域食堂シュワーズ ……９４
特定非営利活動法人　絆 ……９５
ゆげの森食堂 ……９５
むさし子ども食堂 ……９５
力合西校区社会福祉協議会力西こども食堂 ……９５

NPO 法人くまもと相談所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９６
慶徳こども食堂実行委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９６
特定非営利活動法人おーさぁ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９６
月出まんぷく食堂運営委員会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９６
フードリボン IN どんぐりの森 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９７
一新コドモ食堂 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９７
社会福祉法人南苑会ふじとみふれあい食堂 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９７
きずな ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９７
NPO 法人老いと病いの文化研究所われもこう・・・・・・・・・・・・・・・・・・９８
一般社団法人 熊本私学教育支援事業団 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９８
一般社団法人 子育てネットワーク縁側 moyai・・・・・・・・・・・・・・・・・９８
はぐくみ食堂帯山 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９８
はじっこがない食堂 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９９
陽だまりの樹 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９９
かわしり食堂（熊本市地域婦人会連絡協議会食堂） ・・・・・・・・・１００
川口地域食堂（熊本市地域婦人会連絡協議会食堂） ・・・・・・・・・１００
サードプレイス桜の会（熊本市地域婦人会連絡協議会食堂）・１００

（４）フードバンクに関する活動
社会福祉法人南苑会　フードバンク熊本 ・・・・・・・・・・・・・・・・・１０１
熊本県地域こども食堂支援センターTSUDOU・NET ・・・・・・・・・・・・１０１

１．熊本市こどもの未来応援基金について

「熊本市こどもの未来応援基金」を活用して、子育て支援活動をする個人や団体を支援しています。熊本市こどもの未来応援基金は、平成 6 年に熊本市エンゼル基金として、次の世代を担うこどもたちが、いきいきと、たくましく、健やかに育つ環境づくりに資することを目的に創設されました。

平成 31 年(2019 年)4 月から、こどもたちの未来の応援につながるものとして、「熊本市エンゼル基金」を「熊本市こどもの未来応援基金」へ名称を変更するとともに、新たに、こども食堂への支援を行うなど、助成対象を拡充しました。

（１）助成概要

○広く全般に子育てや児童を支援する活動

対象事業	1　地域における子育て支援活動 2　児童の健全育成を目的とする活動 3　障がいがある児童を支援する活動 4　ひとり親家庭及び両親のいない児童を支援する活動 5　父親の子育て及び育児参加を推進する活動
助成要件	個人または団体の居所・本拠地が熊本市内であること
対象経費	報償費、需用費（食料費は除く）、燃料光水熱費、役務費、使用料及び賃借料、備品購入費（上限総額 2 万円）
助成額	**・スタートアップ枠**　：設立後 3 年目までの団体・個人 初年度 5 万円、次年度 5 万円 **・企画枠**：特に効果的かつ先進的な取り組みで、他の模範となるような活動を行う団体 単年度上限 10 万円

○こども食堂に関する活動

対象事業	1　食事の提供を通し、全てのこどもが気軽に立ち寄れるこどもの居場所づくりを行う活動（**新設・運営枠**） 2　1 のこどもの居場所づくりに加え、学習等様々な学びの支援を行う活動　（**拡充枠**）
助成要件	1　熊本市内で開設するもの 2　開催時、常駐できる責任者を配置し、国等の通知に基づき安全面・衛生面について適切な配慮を行っていること 3　責任者とは別に、活動の補助等ができるスタッフを 1 名以上配置すること 4　3 人以上で構成されていること 5　継続した運営をする意思及び能力を有すると認められること 6　こどもが広く参加できるように広報し、団体関係者等特定の者しか参加できない運営を行わないこと 7　定款・会則等を備えていること

対象経費	報償費、需用費（**食料費も含む**）、燃料光水熱費、役務費、使用料及び賃借料、備品購入費（運営枠は上限総額 2 万円）
助成額	・**運営枠**　：年間の実施回数に応じて上限額を設定 年　4～12 回　　5 万円　　年 13～18 回　　7 万円 年 19～24 回　10 万円　　年 25 回以上　15 万円 ・**開設枠**：上限 5 万円（申請年度内に開始することが確定した団体に限る） ※1 団体 1 回限り申請可　※運営枠との併用可 ・**拡充枠**：上限 5 万円 ※1 団体 1 回限り申請可　※運営枠との併用可

（２）基金への寄附について

次の①または②のどちらかの方法により、随時、寄附を募集しています。

①ふるさと納税ポータルサイト「ふるさとチョイス」・「楽天ふるさと納税」での申し込み

・「ふるさとチョイス」
https://www.furusato-tax.jp/japan/prefecture/43100

・「楽天ふるさと納税」
https://www.rakuten.ne.jp/gold/f431001-kumamoto/?s-id=furusato_pc_area-kumamoto_f431001-kumamoto

②こども政策課へ寄附採納願いを提出

下記 HP に掲載しております『寄附採納願い』をこども政策課へご提出ください。納付書を送付いたしますので、金融機関（ゆうちょ銀行を除く）にてお振込みをお願いいたします。

熊本市こども食堂応援プロジェクト / 熊本市公式サイト

（３）ご支援頂いた皆様

〇令和７年度

計２０，９００件、計２２９，８９０千円

熊本市保健師看護師連絡協議会　令和 6 年度感謝のつどい、ＪＪＪ音楽祭、三和リース株式会社、株式会社　七草堂、株式会社　スマイルクリエイト、有限会社 マリオネット、株式会社　福徳開発、熊本電気設備工業協同組合、熊本朝日放送株式会社、第一生命労働組合　福岡総合支部、高校 OB 連合会、株式会社 C&S、個人

（1）広く全般に子育てや児童を支援する活動（スタートアップ枠）

子ども若者保健室～らしく～

活動を始めるきっかけ/活動概要

病院ではコロナ禍で自死を選んで搬送される子どもが多く、我が子も学校へ行けない状態があり、今の子ども達になにかできないかと考え活動を始めた。子どもや親が自律神経や精神障害などの二次障害を起こさないこと、孤立しないことが大切と考え、子どものいばしょや親カフェ、心のサポート相談員、子どもアドボケイトの活動を行っている。

重点的に取り組んだこと/成果

子どものいばしょでは、子ども達が自由に楽しい時間を過ごせること、問題や悩みを傾聴して子どもに伴走した。子どもは話すことで自分の整理がついて、対策や気持ちの切り替えを行うことができた。

親カフェでは、不登校や発達障害に悩む親御さんのお話を傾聴して、共感や共有に努め必要なときは、関係機関や病院などの情報提供を行った。最も大切なことは、親が元気になり子どもと穏やかに向き合うことで子どもも整ってくることだと伝えた。親が笑顔になり、子どもと向き合うことで、学校へ行けなかった子どもが学校へ行くことができたり、自分の進路を自分で決めて前進していく姿を多く見られた。

課題/解決に向けての取り組み

熊本の子ども若者の自死 0 を目指しているので、少しでも多くの子ども達と向き合いたい。また、中高生の自殺が多いので、中高生と関わることができる活動も始めたいと思っている。

今後の展開

これまでの子どものいばしょや親カフェに加えて、学校へ行っていない子どもとの活動や登校時の子どもへおにぎりを提供して、元気に過ごしてもらうこと、中高生と繋がりが持てるように取り組む。

連携団体

・NPO 法人トナリビト（Me:vo 所属訪問アドボカシー）親の支援がない子どもの相談
・あやの里との連携で地域と共に子育て支援ができる
・熊本 YMCA ぷらっとほーむ　親カフェ共催
・教育相談室　心のサポート相談員として所属
・社会福祉法人熊本県ひとり親家庭福祉協議会
・十善病院小児科　医療が必要な場合の医師との連携
・国立病院機構との連携

問い合わせ

✉	📞	HP・SNS 等
rashiku.kumamoto@gmail.com	担当者名：藤戸邦子 090-1974-4147	InstagramHome | rashiku-kumamoto

気軽に楽しむ
親カフェ交流会
- 参加費 -
500円
（ドリンク・お菓子代込み）
2025年
第2土曜日
14時~16時
いきしぶり
ひきこもり
不登校
発達障害
一人で悩むより、吐きだし・共有・
共感して少し楽になりませんか？
場所：東部グローバルコミュニティプラザ1階
熊本市東区帯山2丁目1-11　電話096-382-6661
インスタグラム
共同開催ぷらっとほーむ（熊本YMCA）子ども若者保健室～らしく～
お問い合わせ：藤戸邦子
rashiku.kumamoto@gmail.com

当日参加OK!
第
1・3 木
13:00~17:00
こどものいばしょ
おしゃべり・宿題・ゲーム・お絵かきなど自由に過ごしましょう！
会場 あやの里 as a cafe
住所：熊本市東区山ノ内2丁目1-14
費用 無料(お水・だがし)
対象 小・中・高生
※13:00~15:00は静かに過ごせます
※子ども学生相談無料で行います
ご寄付・ボランティア随時募集中
インスタグラム
お問い合わせ
子ども若者保健室～らしく～第3の居場所
090-1944-4147
rashiku.kumamoto@gmail.com
担当：藤戸

プレバレーボールスクール熊本

活動を始めるきっかけ/活動概要

近年、子どもを取り巻くスポーツ環境においては、競技志向の強いチーム活動が中心となっており、「ついていけるか不安」「継続できるか分からない」といった理由から、スポーツに触れる機会そのものを持てない子どもや保育者が増えています。
また、習い事においては、子どもの興味や発達段階に関わらず「参加しなければならない」という環境が負担となるケースも多く見られます。
このような背景から、私たちは「子どもたちが夢を見つける環境を提供する」という理念のもと、スポーツを始める前段階として、自由にかかわれる環境づくりを目的に本活動を開始しました。
本スクールでは、技術指導を主目的とせず、まずはスポーツを「好きになること」を大切にしています。子どもたちがその日の気分や興味に応じて参加内容を選び、「できた」「やってみたい」と感じる経験を積み重ねることで、将来的な夢や目標につながるきっかけづくりを行っています。
活動では、幼児から小学生（未経験者含む）を対象に、月２回の教室を開催しています。キッズ用のネットや軽量ボール、風船などを活用し、スポーツへの心理的ハードルを下げる工夫を行うとともに、少人数での関わりにより一人ひとりに寄り添った環境を整えています。

重点的に取り組んだこと/成果

本事業では、「スポーツを好きになること」「挑戦する気持ちを育てること」に重点を置き、子どもたちの主体性を尊重した関わりを行いました。
無理に参加を促すのではなく、子ども自身の「やってみたい」という気持ちを大切にし、認める・褒める・励ます関わりを通じて、安心して挑戦できる環境づくりに取り組みました。
その結果、毎回約５０名の参加があり、約８割がリピーターとなりました。このことから、本活動が子どもたちにとって「また参加したい」と感じられる場となっていることがうかがえます。
また、活動を通じて、スポーツへの苦手意識の軽減や、自発的に関わろうとする姿勢の変化が見られました。保護者からも「無理なく参加できる」「安心して見守れる」といった声が寄せられており、子どもだけでなく家庭にとっても価値のある場となっています。
本活動は、スポーツ参加の裾野拡大に寄与するとともに、将来的な競技力向上につながる基盤形成の一助となっています。

課題/解決に向けての取り組み

参加者の増加に伴い、活動運営に必要な会場費、用具費、保険料、講師謝金、広報費等の確保が課題となっています。参加しやすい環境を維持するため、参加費を低く設定していることから、安定した財源の確保が必要です。

また、活動の拡大に伴い、理念を共有できる指導者やスタッフの確保・育成も重要な課題となっています。

これらに対し、チラシや SNS、口コミを活用した広報活動を強化し、認知度向上と参加者の拡大を図るとともに、地域との連携を深めながら支援者の確保に取り組んでいます。

今後の展開

情報発信を通じて、本活動の認知は、県内全域へと広がりつつあります。今後は開催拠点や回数の拡充を進め、より多くの子どもたちに「スポーツとの出会いの場」提供してきます。また、本スクールをきっかけとして、子どもたちが自らの興味や可能性に気づき、それぞれの夢や目標へとつながるような環境づくりを継続していきます。将来的には、自主財源を中心とした持続可能な運営体制を構築し、地域におけるスポーツ環境の充実と、子どもたちの健全な成長に寄与することを目指します。

連携団体

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		HP・SNS 等
Into@pvsk.jp	担当者名：宮迫秋穂	Instagram プレバレーボールスクール熊本(HP) Add LINE friend(公式 LINE)

助産院メルティングタッチ

活動を始めるきっかけ/活動概要

近年、核家族化の進行や地域コミュニティの希薄化、妊産婦の体格や体力の変化などにより、子育てに困難さを感じる保護者が増えています。そのため、家族だけでなく社会全体で子育てを支える環境づくりが求められています。

当助産院においても、乳児の発育・発達に関するご相談や、子どもとの関わり方についてのご相談が多く寄せられており、育児に悩みを抱える母親への支援の重要性を日々実感しています。

これまで当助産院では、産後ケア事業を通して乳児の発達支援や育児指導を行ってきましたが、利用者の方々からは「些細なことでも気軽に相談できる場がほしい」「他の母親と交流できる機会がもっとあれば嬉しい」といった声を多くいただくようになりました。こうしたニーズに応えるため、2023 年 10 月より子育てに関する相談を気軽に行える「育児相談会」を開始しました。さらに現在は、利用者の皆さまのご要望を受け、

・向きぐせや頭の形相談

・発達相談

・離乳食教室

・おんぶ体験

など活動の幅を広げ、地域の子育て家庭をサポートする取り組みを進めています。

重点的に取り組んだこと/成果

昨年度は、71 組の親子にご参加いただきました。

「赤ちゃんが寝ない」「発達が遅くて不安」「向きぐせが気になる」など、子育ての悩みを安心して相談できる場を提供することができました。

発達に遅れが疑われる場合でも「様子観察」となることが多く、自宅での具体的なケア方法や関わり方について相談できる場は多くありません。本事業では、個別に発達状況を確認し、家庭で実践できる具体的な関わり方を丁寧にお伝えすることで、保護者の不安軽減につながりました。

また、発達相談や離乳食教室は母親同士が交流できる機会にもなり、孤立予防の観点からも有意義な取り組みとなりました。

熊本市開催の離乳食教室は初期段階の内容が中心ですが、本事業では専門講師を招き、発達段階を確認しながら中期・後期への進め方や「食べない」ことへの具体的対応を伝える、より実践的な教室を開催しました。内容の満足度も高く、継続を希望する声も多くいただいています。

課題/解決に向けての取り組み

近年、子育て家庭からの相談内容はより多様化・専門化しており、1歳を過ぎるころには

・ハイハイをしない

・離乳食が進まない

・食べ物を丸呑みしてしまう

など、個別性の高い相談が増えています。

これらの課題に対応するためには、助産師だけでなく、管理栄養士や歯科衛生士、リハビリテーション専門職など、多職種との連携が今後ますます重要になると考えています。

当院では、管理栄養士や歯科衛生士と連携し、保護者の悩みに多角的に対応できる体制づくりを進めています。また、必要に応じて適切なタイミングで医療機関や療育機関へつなぐ「橋渡し」の役割も担っています。

今後の展開

これまでの活動で得た経験や保護者の声をもとに、地域の子育て支援をさらに充実させていきます。特に、離乳食が進まない・食べ方に不安があるといった個別性の高い相談に対応するため、

多職種と連携した離乳食教室

を継続・発展させ、乳児期からの食育支援にも力を入れていきます。

また、育児相談のさらなる充実、多職種連携による専門的支援体制の強化を図り、妊娠期から子育て期まで切れ目なく支える取り組みを進めてまいります。

今後も、地域の子育て家庭が安心して子育てできる環境づくりを目指し、助産師ならではの専門的視点と温かな関わりを大切にしながら、育児相談・子育て支援に取り組んでいきます。

連携団体

理学療法士、言語聴覚士、歯科衛生士、管理栄養士等、他職種と連携している

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		HP・SNS 等
	090-8280-3042 （担当者氏名:林田直子）	Instagram https://lin.ee/rju18l8S

株式会社　スミール

活動を始めるきっかけ/活動概要

　熊本市南区地域では、近年、共働き世帯の流入が増加して、子育て世帯の孤立化が進んでいる。具体的には、子育てをされている方や、出産を控えている方（母親）より、妊娠・出産後の生活環境の変化による大きな不安やストレスを感じたという声を多く耳にする。そこで、子育て中の親同士のコミュニケーションを大切に、ストレス緩和に繋がる講座・ワークショップ等を実施することと、同世代の子どもが一緒に遊べる場を設けることを目的とし、一人で抱え込まない環境や、問題における不安解消、他者との交流や意見交換ができるきっかけの場つくりを目指す。
また、子育て相談や共働き家庭への保育所入園等に関する相談情報共有も個別に実施を行う。

重点的に取り組んだこと/成果

〇アロマワークショップ　骨盤ケア
〇離乳食作り
〇産後ケア
０歳児さんの参加について他の子育て支援に参加されている方が、今年は重なっていたように感じ、リピーターさんも少しついたように感じたので続きの有る子育て支援活動を行うように取り組んだ。

課題/解決に向けての取り組み

集客の難しさや広告宣伝の課題を工夫して取り組んでいくようにする。
広告をカラフルにして目を引くように工夫を行う。

今後の展開

活動内容の周知を行うとともに、産休・育休の保護者さんにとって子育てを楽しめるよう、地域の人と子育てをすることの楽しさや大切さを広く伝えていく。

連携団体

ことな保育園・とことこ保育園・みいな保育園

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		HP・SNS 等
kotona@smile-nikoniko.com	担当者名：廣田絢子	Smile_nikoniko_relaxtime Instagram

団体名	くまもと中央高等学院　中学生講座	地域しんぶんどう食堂
活動を始めるきっかけ/活動概要	実施回数：27回　参加人数：173名（こども173名・大人0名） 主に、不登校や学校生活に困難を抱える中学生の保護者の方の、安心して過ごせる居場所と学びの機会を提供することを目的に活動を開始した。中学1年生から3年生を対象に、学習支援を行うほか、コミュニケーションゲームやeスポーツ体験、季節イベントなどを実施し、参加者同士の交流や社会とのつながりづくりを支援している。	実施回数：4回　参加人数：117名（こども57名・大人60名） 地域の子どもたちや保護者、地域の方が気軽に集い、食事や交流を通じて安心して過ごし、こどもの孤立を防ぐ居場所づくりを目的として活動を開始した。地域住民が交流できる機会の創出を目指し、食堂の開催に加え、季節行事や学習支援など多様な活動を実施している。広報については、店舗や地域掲示板でのチラシ掲示、ポスティング、SNS等を活用しながら参加者の募集を行った。
重点的に取り組んだこと/成果	熊本県内の中学校へのチラシ配布や学校説明会等での周知を継続し、活動の認知向上に努めた。その結果、担任教員からの紹介が増え、参加者数も回を重ねるごとに増加した。また、継続して参加する生徒も多く、学校以外の居場所として機能したことが大きな成果となった。	食事提供だけでなく、そうめん流しやプチマルシェ、学習支援など、子どもたちが楽しみながら参加できる企画の充実に取り組んだ。また、調理ボランティアや学習支援ボランティアとして地域住民の協力を得ることで、世代を超えた交流の場を創出することができた。特に親子での参加が多く、家計負担の軽減につながったとの声が寄せられるなど、地域に必要とされる活動として定着しつつある。また、マルシェを通じて新たな参加者とのつながりが生まれ、活動の認知拡大にもつながった。
今後の課題・展開	支援を必要としていても、学校や地域の活動につながれていない生徒は依然として存在している。今後は学校や関係機関との連携をさらに強化し、活動の周知方法を工夫することで、より多くの生徒に支援を届けていく。また、参加しやすい環境づくりと活動内容の充実を図り、継続的な居場所づくりに取り組んでいく。	現在は親子での参加が中心となっているため、今後は子どもだけでも安心して参加できる環境づくりや周知方法の工夫を進め、より多くの子どもたちの利用につなげていきたい。また、参加者の満足度が高かった学習支援活動については継続開催を検討し、食事提供と併せて子どもの成長を支える居場所づくりの充実を図る。
連携団体	特になし	嘉島だんだん食堂

団体名	碩台居場所づくり委員会	Risa先生と親子でフォニックス英会話
活動を始めるきっかけ/活動概要	実施回数：37回　参加人数：737名（こども474名・大人263名） 地域において、放課後に子どもたちが安心して過ごせる居場所へのニーズが高まっていたことから、児童の見守りと学習機会の確保を目的として活動を開始した。碩台小学校区の小学生を対象に、週1回放課後にコミュニティセンターへ集まり、学習支援やおやつの提供を行うとともに、自由遊びや様々な体験活動を実施し、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいる。	実施回数：27回　参加人数：305名（こども148名・大人157名） 親子で楽しみながら異文化を身近に感じてもらうとともに、家庭でのコミュニケーションの中で日常的かつ継続的に英語に触れる機会を創出し、英語学習の基盤づくりにつなげることを目的として本活動を開始した。活動では、月2～3回、公民館やコミュニティセンターにおいて親子向けの英語教室を開催している。フォニックスを基礎とした学習に加え、英語絵本の読み聞かせや英会話活動などを取り入れ、親子が楽しみながら自然に英語に親しめる環境づくりに取り組んだ。
重点的に取り組んだこと/成果	学習支援だけでなく、多様な体験活動を取り入れることで、子どもたちの自主性やコミュニケーション能力の向上を図った。特に、企業や地域団体と連携したスライムづくりやミニ運動会、文化体験教室などを実施し、普段経験できない学びの機会を提供した。その結果、継続的に参加する児童が増え、異学年交流や地域とのつながりが深まるとともに、地域の見守り活動としての役割も高まった。	フォニックス指導を通じて、英語の音と文字の関係を学ぶ機会を提供したことで、参加者が英単語を自力で読もうとする姿勢や英語絵本への親しみを育むことができた。また、毎回の英会話活動では「間違いを恐れずに伝えること」を重視し、参加者同士が近況を英語で共有することで、英語によるコミュニケーションへの抵抗感の軽減につながった。活動後のアンケートや参加者の声からも、家庭で英語の歌や絵本を楽しむ機会が増え、親子で継続的に英語へ親しむ環境づくりに寄与したことがうかがえた。
今後の課題・展開	参加児童の増加や活動内容の充実に対応するため、継続的なボランティアスタッフの確保と育成が課題である。また、子どもたちの多様なニーズに応じたプログラムの充実を図るとともに、地域や企業との連携をさらに拡大し、より多くの体験機会を提供できる活動へ発展させていきたい。	今後は、SNSによる広報活動を充実させ、より多くの親子への周知を図るとともに、地域イベントへの参加を通じて他団体との連携を強化し、活動のさらなる発展につなげていきたい。
連携団体	碩台校区自治協議会、碩台校区社会福祉協議会、碩台校区民生委員児童委員協議会、碩台小学校、碩台小学校PTAなでしこ会、ささえりあ子飼	大江公民館、白山コミュニティセンター、中央公民館

熊本食育の会

活動を始めるきっかけ/活動概要

食は命、体は食べ物でできている。健康に生きるためにはとても重要な言葉です。健康で生きる、そのためには正しい情報を知って、栄養バランスの取れた食生活を送ることです。そこで食の現状と問題点、栄養バランスの大切さや正しい食生活の提案をするために活動を始めました。特に乳幼児期の食生活は脳の発達、心身の健康、さらに大人になった時の生活習慣病にも影響を与えるので重要なことです。子どもの時から、安心、安全、栄養バランスの取れた食生活を送ることのできる提案を、はなまるクッキングを通してお伝えしています。会員は食育指導士の資格を持ち活動しています。

重点的に取り組んだこと/成果

① はなまるクッキング

毎回、クッキングの後はメニューに合わせた内容で食育コーナーを実施。

たんぱく質の重要性、不足しがちなビタミン、ミネラルのこと、食品添加物のこと、トランス脂肪酸との付き合い方など 10～15 分間で資料映像などを使い実施している。

また、メニューを１品にしぼり、短時間で参加しやすい企画として、添加物ゼロの焼き肉のたれ、だし醤油、シフォンケーキ、おやつなどの会を開催している。

赤ちゃんを連れて、気軽に参加しやすいように計画、実施している。

② 味噌作り

味噌作りを通して発酵食品の良さや「ご飯とみそ汁」和食、伝統食を伝えている。

また、土鍋でご飯を炊くこと。(簡単で早い) 炊き立てご飯はレンジでチンしたご飯とは違い、元気が出る。免疫力アップにつながることを伝えている。

③ 夏休みキッズクッキング（対象年齢は年中さんから、小学生まで）

子どもたちだけでご飯とみそ汁、目玉焼き、胡麻あえを作った。

調理の時間、保護者は別室で食育の話を聞いてもらう。

食品添加物（合成着色料、香料、クエン酸など）だけできるジュース作りの実験をし、市販されいるジュースに使われていることを知ってもらう。また、ジュースの糖分が砂糖だけではなく、加糖ぶどう糖液糖などが多く使用され、これらの糖分の摂り過ぎが体調を悪くする原因にもなることなど、紙芝居を使い子どもたちと保護者に知ってもらった。

成果

参加者のアンケートからは乳幼児期からの食生活の大切さを知り、子どもの口に入れるものに気を遣うようにしたいと考えてもらい食生活の改善がみられる。

キッズクッキングでは子供さんが当日の夕食にご飯を炊き、味噌汁を作った家庭もあった。

キッズクッキングをきっかけに、自宅でも積極的に料理に取り組み、お手伝いをしているとの報告がある。

課題/解決に向けての取り組み

会場は田迎西地域コミュニティーセンターで実施しているが、コミュニティーセンターの利用者も多く使用できる日が限られているので、他の会場での開催も視野に入れて、食育活動をさらに広げている。キッズクッキングは現在、年１回の開催だが、参加者からの要望もあり、回数を増やす検討をしている。

今後の展開

子育て中の方に役立つ食育クッキングを継続し、今後は食育出前講座なども実施したいと考えている。「安心、安全、そして簡単で美味しい栄養たっぷり」をテーマに食の大切さと正しい食の情報をお伝えしていく。今後は幼児向けの親子クッキングを実施し、子どもたちが小さい頃から食育に親しめる環境づくりを進めていく。

連携団体

NPO 法人　日本食育協会
NPO 法人　福島県食育協会
NPO 法人　山口県食育協会

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

✉	📞	HP・SNS 等
kyky19562015hhyik@yahoo.co.jp	担当者名：横山久美子 090-5742-1520	

はなまるキッズクッキング
こいのぼりいなり寿司作り

味噌作り

キッズクッキング

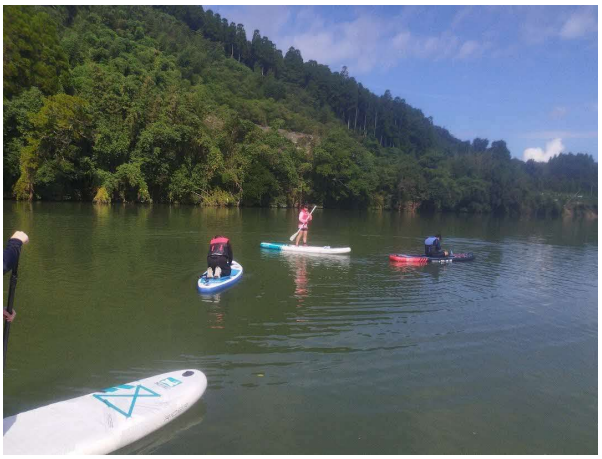
うえき学習教室

活動を始めるきっかけ/活動概要

うえき学習教室は、近年の経済事情の悪化による、経済格差、教育格差の広がりに伴い、また、経済的に困難なひとり親の家庭、困窮家庭、高齢者が増えている世の中の世相を鑑みて、それらの格差是正のための社会教育活動や、教育の機会の提供、地域の幅広い年齢層の人々の交流を通してコミュニティ・交流活動を活性化することを活動の目的とする。また、所得格差による、体験格差の解消も目的として活動していく。

重点的に取り組んだこと/成果

活動を通じて得られた成果として、本活動の対象者が主にひとり親家庭の子どもたちであったことから、当初は熊本市教育委員会の HP による募集だけでは生徒がなかなか集まらない状況であった。しかし、熊本市発明クラブという小中学生を対象とした団体とコラボレーションすることで、そのクラブ生の中から本活動に興味を持つ子どもたちが現れた。また、本活動の生徒が発明クラブの活動に参加したり、会場を共有する他団体のプログラムへ参加したりする機会にも恵まれた。さらに、他団体の子どもたちと交流を通じて、当初想定してなかった新たなつながりや活動の幅を広げることができた。当初は想定していなかった団体間の連携や交流が生まれたことは、本活動の大きな成果であり、実施してよかったと感じている。加えて、レクリエーション活動として、和泉町の菊池川でサップ体験を実施した。普段なかなか体験できない自然体験活動を通して、子どもたちは大いに楽しみ、参加者同士の交流を深める貴重な機会となった。子どもたちの生き生きした表情を見ることができ、充実した活動となった。



課題/解決に向けての取り組み

今後は協力団体と連携して、いろんなところから、この学習教室を利用できるようにしていき、持続可能な体制づくりを行う。また、告知も地元の小学校にチラシを配布するなど告知をしっかり行っていきたいと考えている。

今後は、他団体の SNS などでの告知協力なども打診しながら、リアルだけでなく、オンラインでも連携を意識づけて行いたい。

今後の展開

今後はこの地域の居場所として、体制を整えながら、より地域に密着した教室づくりを行っていく。それと並行して、この会場を使っている団体とコラボレーションしながら、重層的な活動ができるようにして言えたらと思う。

連携団体

・熊本市少年少女発明クラブ
・特定非営利活動法人　くまもと LR ネット
・アソビバ

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

✉	📞	HP・SNS 等
kikuchi.working@gmail.com	090-9586-6750 担当者名：菊池	

たけみやいもほりファミリー会

活動を始めるきっかけ/活動概要

熊本地震発生時には、地域住民が多く名不安を抱える中、日頃からの住民同士のつながりや交流の大切さを改めて実感しました。また、その後の新型コロナウイルス感染症の流行により、地域での交流機会が減少し、住民同士の関係づくりが難しい状況が続いていました。しかし現在は、屋外での活動やイベントが再開できる環境が整いつつあります。地域には戸建住宅やアパート等へ新たに転入してきた世代も多く、特に小学生以下の子どもを持つ家庭が増えています。一方で、近隣に住んでいても気軽に声を掛け合う機会が少なく、住民同士の関係づくりが課題となっています。そこで、子どもたちとその保護者が一緒に楽しめる芋掘り体験を通して交流の機会を創出し、親子同士や地域住民同士の親睦を深めることを目的とします。日頃から顔の見える関係を築くことで、災害時や緊急時にもお互いに声を掛け合い、支えあえる地域づくりにつなげます。具体的には、春のじゃがいも堀りと秋のさつまいも堀りを実施し、近隣の親子が楽しく交流できる場を提供します。これらの活動を通して、地域のつながりの強化と子育て世帯の孤立防止を図ります。

重点的に取り組んだこと/成果

私は、この地域に以前より住んでいますが、ご近所の子育て世代の方とは挨拶を交わす程度でした。そこで、イモ掘り会の目的や趣旨を説明し、気軽に参加できる地域交流の場として参加を呼びかけました。初めは、どのような方が参加するのかと参加をためらう方もいらっしゃいましたが、次第に交流が深まり、お知り合いの家族も誘って参加していただくようになりました。回を重ねると、「参加したいと思っていたので、誘いの声を掛けてもらって嬉しかった。」というお声もいただき、少しずつ交流の輪が広がっていることを実感しています。ご近所の方にもこの会の取り組みが少しずつ認識されてきているのだと感じています。今の子どもたちは土に触れる機会が少ないのではないかと思いますので、イモ堀りを通して土に触れて、自然に接してもらいたいと思います。そのため、イモの栽培は完全に無農薬で行っています。また、昨年度サツマイモのツルの入手が難しかったので、本年度は代替策としてカボチャやダイコンの収穫を行いました。参加した親子にはこれらも新鮮な体験でとても喜んでもらえました。来年度も継続していきたいと思います。

ジャガイモ掘りの様子

カボチャの収穫の様子

ダイコン掘りの様子

課題/解決に向けての取り組み

近所には賃貸アパートが数軒あり、子育て世代の世帯が住んでいるのか把握が十分にできていません。そのため、参加の声かけを十分にできていない可能性があります。普段からの声かけが必要だと考えます。そのため、隣は声かけがあったが、自分の所はないという不平等感がないように、メンバーで情報共有し近隣の子育て中のご家庭に声かけを心がけて行いたいと思います。また、開催当初から参加していた世帯の子どもたちの年齢が大きくなり、参加をしなくなることも課題の一つです。中学生ともなると学習や部活動など忙しくなり参加が難しくなります。一方、年齢の小さな子どもたちは喜んで参加してもらえるので、そのような子どもたちがいる新たな家族の参加を促し、可能であればこれまで参加していた子どもたちとも一緒に交流できるようにしていきたいと思います。

今後の展開

今年度は、秋のサツマイモ掘りができずに、代替策としてカボチャやダイコンの収穫を行った。カボチャやダイコンが畑で育っている様子を初めて見る親子も多く、収穫をとても喜んでもらえた。今後は、年間を通して様々な種類のやさいの収穫を行うと、より楽しんで参加してもらえるのではないかと思います。

連携団体

今のところ連携する団体はありません。
ご近所の高齢者世帯にもご参加を呼びかけると地域全体の交流ができるかもしれません。

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		HP・SNS 等
	担当者名：	

西里校区子育てネットワーク「すいれん」

活動を始めるきっかけ/活動概要

西里校区において子育ての経験不足からくる不安や孤立化を無くし、同じくらいの子どもを待つお母さん、お父さんを繋ぐきっかけ作りをしたい為。
子育てサークル「ぼちぼち」の開催、西里小への木育木工活動、赤ちゃん訪問、地域イベントへの協力参加などを行っている。

和菓子作りと茶話会

消防車を見てみよう

Let’ｓバランスボール

ミニ運動会

リース作りとクリスマス会

木のお話＆おもちゃづくり

重点的に取り組んだこと/成果

参加する子どもはもちろんだが、同行する保護者の興味を引くような活動内容にした。また作成するだけではなく学びを必ず入れた。一生懸命に聞く時間ができ、それを周りに伝えることができたのではと思う。

課題/解決に向けての取り組み

参加者が同じメンバーになりがちなので、なるべく広くお知らせしていきたい。まちづくりセンターや民生委員さんへの協力をお願いする。

今後の展開

デジタル化が加速する中で脱炭素化、カーボンニュートラルなどの学びを取り入れながら、木の優しさを五感で味わえる活動をいろんな場所で行えるのではと思っている。

連携団体

校区社協、青少協、西里小、西里小 PTCA、北部中、西里子育て支援センター、ごちょう子育て支援センター、北部まちづくりセンター、保健科学大学、崇城大学、くまもと木育推進事務局、等

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

✉	📞	HP・SNS 等
	担当者名：	

子育て支援サークル・くまもと

活動を始めるきっかけ/活動概要

「ペアレント・トレーニング」と「子どものタイプ別接し方講座」を使って、子どもとの好ましい関わり方を学ぶ講座を開催し、日常の子育ての困り事に活用することで不安が減り楽しく子育てができるように支援するとともに仲間づくりや、安心してお話ができる居場所作りを目的に活動を始めた。

重点的に取り組んだこと/成果

子育て中の保護者や子どもに関わる支援者を対象として、大江公民館において月 2 回、全 15 回の講座を実施した。講座は、ペアレント・トレーニング（7 回）、子どものタイプ別理解講座（4 回）、茶話会（1 回）、ブラッシュアップ講座（3 回）で構成し、あわせて子どもや家庭に関する悩み、参加者自身の困りごとについて個別相談を実施した。

講座では、知識を学ぶだけでなく、参加者同士でロールプレイを行い、家庭で実践・振り返りを行う機会を設けた。その結果、「子どもを怒る回数が減った」「穏やかに接することが増えた」「子どもの問題行動の背景を理解できるようになり、イライラが少なくなった」「子どもが落ち着いて過ごせるようになった」等、保護者地震や子どもの行動面に前向きな変化が見られた。

また、子どものタイプや特性に応じた関わり方を学ぶことで、「子どものも成長や行動への理解が深まった」「子育てへの不安が軽減した」といった声も寄せられた。さらに、学んだ内容を子どもだけでなく、パートナーや職場・地域での人間関係にも活用したいという意見が多く聞かれ、参加者の視野の広がりや行動変容につながった。

個別相談では、子どもや家庭に関する相談だけでなく、参加者自身の悩みにも寄り添い、継続的な支援につなげることができた。

講座終了後も受講生同士のつながりが継続しており、第 1 期生については受講生からの要望により、2～3 か月に 1 回程度、約 10 名が集まる自主的な学びの場が 4 年間継続している。また、修了生からの相談や参加希望者の紹介、新たな受講生への再受講の広がりも見られており、本事業が地域における継続的な子育て支援ネットワークの形成に寄与している。

課題/解決に向けての取り組み

子ども連れで参加できる環境づくりを考えていきたい。

今後の展開

令和 8 年 6 月～　月 2 回　金曜日　第 5 期生

子育てサポートセミナー（「ペアレント・トレーニングと子どものタイプ別接し方講座」）

今回も全 12 回コースで実施する。子どもとの好ましい関わり方を学ぶとともに仲間づくりや、安心してお話しする居場所作りに取り組んでいく。

連携団体

（株）メンタルサポート研究所グループ
熊本市教育委員会

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		HP・SNS 等
Perseus.992424@gmail.com	090-9490-2188 担当者名：藤吉	

白川小学校親児の会

活動を始めるきっかけ/活動概要

本会は、これまで子供たちを健全に育成するため、自らイベントを計画・実施するだけでなく、ＰＴＡや学校行事のバックアップ、地域イベント等の運営にも携わることで支援体制を構築している。本年度は、当初計画した地域秋祭りの運営支援については、天候不良のため開催中止となり実施できなかったが、夏の「ゴムボートレース＆水てっぽう」、秋の「魚のつかみどり＆プレイランド」の体験型イベントを学校、ＰＴＡ、消防団、青少年健全育成協議会、自治協議会等の協力のもと主催し、活動も定着してきた。さらに学校内の空き地を活用した「じゃがいもの植え付け・収穫体験」も継続的に取り組んでいる。

また地域の自治協議会連絡会の運営会議にも積極的に参加し、地域との連携を密にしながら、子供たちが安心して生活できるよう環境づくりに貢献している。

ジャガイモ収穫体験

ボートレース

水てっぽう（7/27）

消防放水体験（7/27）

魚のつかみどり（10/27）

プレイランド（10/27）

重点的に取り組んだこと/成果

多様な参加体験型イベントを継続的に実施することで地域と連携した「子どもが楽しくともに遊び学べる」場を提供することができた。また開催時期も分散することで、大人や子供がいずれかのイベントに参加できるようにした。さらに、スタッフの負担感が増さないよう「できる人ができる範囲で」を基本スタンスとし、役員によるＷｅｂ会議をイベント実施前に行い、具体的内容やスタッフ参加者等の確認はＳＮＳを利用して会員間で情報を共有。

「ボートレース」は、学校と協議し、学校内プールを使用。児童の安全面を考慮して「アームリングの準備」「保護者同伴の義務付け」「スタッフによる水中での補助」「プール水量の減

水」「テント設置、かき氷販売等による熱中症対策」等を実施。また消防団に依頼して希望児童による「消防放水体験」も行った。

「魚のつかみどり」では、消防団の運営協力に加えて、体験資材（ヤマメ購入・搬送）コストがかかるため、参加者からの最低限の費用徴収、白川校区青少年健全育成協議会や自治協議会等にも、金銭面での支援を要請した。また自主制作した簡易プールを活用し、体験参加者の事故等の発生リスク軽減のため、学年ごとに参加者を整理し人数を制限。

「プレイランド」では、各体験コーナーに２名以上のスタッフを配置して、安全面の配慮を行い、体験終了した児童にはくじ引きを行って、より楽しく参加できるようにした。

「ジャガイモ収穫」では、品種でジャガイモの形が違うこと等体験を通じて、理解することができた。

以上、多様なイベントを通じて、子供たちは日常ではなかなかできないことを体験を通じて、楽しく学び、保護者や地域からも非常に好評であった。運営面でも、数々のイベントを継続的に主催することで、学校や保護者、地域からの信頼が増し、本会が実施するイベントが地域活動としても認知され、地域の担い手としての役割も期待されている。

課題/解決に向けての取り組み

コロナ以降、保護者間の交流が希薄化し、地域においてもイベント等の運営を支える担い手が減少し、活動体制が弱体化している。本会の活動継続は、学校だけでなく地域からも強い期待を背負っているので、今後も保護者、学校や地域と情報共有しながら、学校や地域活動をバックアップできる体制づくりを強化していく。

今後の展開

会員間や学校や地域とも情報共有や発信を行いながら、ノウハウの継承や会員を拡充し、様々な場面での支援体制を強化継続していきたい。

連携団体

白川小ＰＴＡ、白川小学校、白川校区消防団、白川校区青少年健全育成協議会、白川自治協議会

問い合わせ

✉	📞	HP・SNS 等
Pw3snsd@gmail.com	090-5483-0136 （西田伸介）	

子育て支援ワーカーズぺぺぺぺらん

活動を始めるきっかけ/活動概要

子ども達を取り巻く環境が電子メディアなどによって変化するなか、乳幼児からの言葉環境が悪くなっています。子どもたちの健全な育成は、乳幼児期からの環境で左右されます。
子育てに関わる大人が乳幼児期からの言葉環境を良いものとし、子どもの聞く力を育み、社会性、協調性のある子どもの育成をサポートすることを目的とします。

重点的に取り組んだこと/成果

日々の子育ての中で、お子さまとの時間が楽しい時間になるような講座とキッズルーム（親子よみきかせの会）を企画しました。また、若いお母さんの目に届くようにチラシ作成しＳＮＳに投稿するなどの、積極的な広報活動に努めました。さらに、子育てひろばや親子が集う場所へチラシを配布し、講座への呼びかけを行ったりしました。
絵本やわらべうた、ベビーマッサージとふれあい遊びの体験は、親子のコミュニケーションを図ることのできる大切なひと時となります。そして、それらを日々の生活の中に取り入れてくださることで、「育児が楽しい」と感じていただけたことは大きな成果となりました。
乳幼児期から絵本やわらべうたを通した豊かな言葉に触れる体験を重ねることで、子どもたちが見せる表情は、お母さん方の笑顔を誘いました。その笑顔は子どもたちの成長に欠かせない「安心感」を育むことにつながり、本事業の成果の一つとなりました。

わらべうた

わらべうた

キッズルーム

絵本講座

課題/解決に向けての取り組み

お母さん方の育児のサポートになるための活動を続けていくには、SNS などのソーシャルメディアや小さなチラシを通してぺぺぺぺらんの活動を知ってもらうことが必要です。絵本講座、わらべうた講座、キッズルームなどのおはなし会活動を続けることで、子育て中の方との出会い、ともに乳児からの豊かな言葉の世界に寄り添っていけるよう丁寧に取り組んでいきたいと思います。

今後の展開

地域に根ざす子育て支援として、子どもたちの豊かな言葉環境が整った育児サポートに取り組んでいきます。

連携団体

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

✉	📞	HP・SNS 等
mail@pepepeperam.com	096-337-0450 担当者名：椎葉　信子	

Office38　WindBell

活動を始めるきっかけ/活動概要

地域の子どもたちの居場所づくりとしての学習支援、および、地域の方々から、制服や学用品のリユースができると助かる・・などの要望を受け、W-B プロジェクトを開始。

月平均 7 回の（週 2 日）制服リユース、および学習支援会を行っている。制服リユースに関しては、いらなくなった制服を欲しいというアナウンスは口コミやインスタグラム、LINE アカウントで行っている。その結果、たくさんの支援の輪が広がり、学用品や制服が集まった。ほつれていたり、汚れていたものはスタッフで不定期に集まり、きれいに整え、なるべくきれいな状態でお届けできるよう、努力している。

また、学習支援に関しては、子どもたちの要望が強く、今期は学習支援員の調整を行い、本年度も週２回程度の学習支援の場を確保できた。支援員に関しては、高校生や子ども関係の仕事に携わる専門家をはじめ、地域の有志に依頼し支援を行った。屋外の活動で、寒かったり暑かったりするのだが、子どもたちは意欲的に学習に取り組み、それぞれの課題に取り組むことができた。

重点的に取り組んだこと/成果

子どもたちからの「もっと開催日を増やしてほしい」という要望に応えるべく、今年もかなりの調整を行い、週2回の開催日を設けることができた。

さらには、地域の方々に理解し、みんなで見守っていただきたい思いで、道行く人に積極的に声を掛け、活動の説明を行った。その成果として、制服リユース、学習支援を行っていることがずいぶん地域に知られ、地域の皆様から「子どもたちのおやつにして」と品物を持参いただいたり、寄付をいただくなど、それぞれ気にかけていただき、支援をしていただくようになった。

このように、開催回数が増えたことで、地域のたくさんの方の目に触れることになり、子どもたちを地域のたくさんの温かい目で見守っていただくことに繋がったと感じている。

課題/解決に向けての取り組み

マンパワーについて、高校生や学生などの支援を継続して得られるよう、積極的に学校等へ働きかけを行う。

今後の展開

この活動を今後も維持できるよう、積極的に活動をアピールしていきたい。

連携団体

お問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

	070－5416－8157 （担当者：森髙）	HP・SNS 等

子育て応援団　とらポッケ

活動を始めるきっかけ/活動概要

地域のこども・子育て支援は、行政だけでなく、個人・団体・企業の善意によって支えられています。こうした活動を継続・発展させるには、新たなつながりづくりが重要ですが、「支援団体の場所や必要な支援が分かりにくい」という課題があります。

そこで私たちは、中間支援として、支援団体の情報をデータベース化して企業へ発信する取り組み実施することにしました。

重点的に取り組んだこと/成果

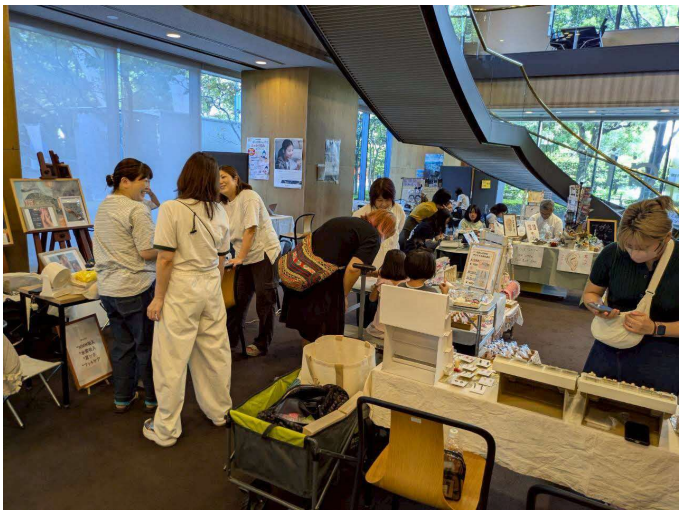
【重点的に取り組んだこと】

1　子育て支援を行う民間団体（子育て応援団体）のデータベース化による周知とマッチング事業

① 子育て応援団体（こども食堂、こどもの居場所等）にアンケートを実施
② アンケート結果およびこども政策課のデータを基にデータベース化
③ とらポッケの HP にて結果を公開
④ 熊本市子育て支援優良企業へデータの周知、支援を依頼

２　マッチング事業の周知及びネットワークづくり

① お話会「うちの子学校に行きません」を開催
子育てに関する課題の認識を深めえると同時に支援の必要性を周知。
② 中央区まちづくりセンター主催の「地域と企業を結ぶ応援事業」に参加
とらポッケ活動の周知。
③ とらポッケマルシェ「親子で楽しむ MARGHE」を開催
参加者との交流の中でとらポッケ活動の周知。
④ こどもを応援する団体の交流会を開催
各団体との協力支援体制の呼びかけ。
⑤ お話会「大人の発達障がいの基礎知識」を開催
とらポッケ活動の周知。



R7.9.23　親子で楽しむマルシェ

R7.12.14　とらポッケの交流会

【成果】

・１の事業では、私たち団体の知名度が低く信用性もなかったのかアンケートの回答数が少なかったが、こども政策課が作成された既存のデータを基にベースを作成することはできた。データベース化されたものをより確実に周知するために、企業への郵送での紹介を行ったが、企業からの支援は、直接支援団体と連絡を取り行ってもらうこととしたため、どのくらいの成果があったかは、掌握できていない。

　１つの企業から当団体に対する協力の申し出があったことから、当団体の意図することはある程度企業に周知でき、支援団体の課題や団体の周知には、寄与できたのではないかと考える。

・２の活動では、より具体的なつながりが持てる計画を実施。支援団体や企業とも互いの活動状況を知ることができ、ネットワークができ、今後のそれぞれの活動強化へとつながり、

一定の効果があったと考えている。

課題/解決に向けての取り組み

【課題】

民間団体等との効果的なネットワーク構築

【取り組み】

　現在、他支援団体でも民間団体や個人をつなげるネットーク化に向けた取り組みが進められており、そういった団体と連携することで、より分かりやすく参画機関同士の専門性や特色といった強みを発揮できると考え、今後は当団体独自の活動を行いつつ、他機関との連携も進めていきたい。

今後の展開

・交流会等を通じてさらなるネットワークを広げていきたい
・ネットワークを通じて、こども・若者、育児支援の活動を効果的に実施していきたい
・私たちの持つ専門性を活用した支援団体への支援を行いたい

連携団体

・熊本市こども・子育て応援サイト　子育て応援団体に登録　※具体的な連携先は省略

問い合わせ

✉	📞	HP・SNS 等
torapokke@yahoo.co.jp	090-4355-5708 担当者名 :野口　香鶴美	HP: とらポッケ Instagram：とらポッケ

ユニバーサル親子柔道教室

活動を始めるきっかけ/活動概要

柔道の創設者、嘉納治五郎師範の教えに「精力善用」「自他共栄」があります。

「精力善用」：心身の持つすべての力を活かして、柔道だけでなく、社会のため、みんなのために使いましょう。

「自他共栄」：思いやりの心、感謝の心、信頼し合う心、助け合う心をもって、自分一人だけでなく、みんなと共に栄える世の中をつくりましょう。

この精神は柔道に限らず、ユニバーサルな社会につながると私は考えています。運動の得意・不得意に関わらず、障がい、年齢、性別に関係なく、誰でも柔道の体験ができ、親子で楽しく体を動かせる場所を作りたいとの思いから、【ユニバーサル親子柔道教室】を始めました。

重点的に取り組んだこと/成果

〈重点的に取り組んだこと〉

① 「ほめる」こと、　子どもたちの発達段階に応じた指導

② 子どもたちに役割を持ってもらうこと

③ 参加者の交流

〈成果〉

① 公認心理師の先生のアドバイスを取り入れ、全体の合理的配慮に繋げました。個々の子どもたちの発達段階に合わせて、指導者の先生方は柔軟に対応してくださいました。「よくできたね」「すごいね」と、「ほめる」声掛けをしました。このことは、親子同士、普段はなかなか気づけない「お互いのよいところ」への気づきや、「今できていること」に子どもたち自身が気付き認めることに繋がったのではないかと思います。

② 毎回の出欠確認の受付の際に、子どもたちに号令係を決めるクジを引いてもらいました。号令係になった子どもさんは、元気に号令をかけてくれました。継続参加の子どもさんが、プログラムの中のお手本を引き受けてくれました。子どもたちは、それぞれの役割を進んで引き受けてくれました。

③ 親子同士だけでなく、参加者同士の交流も含めたプログラムも実施することができました。本年度も熊本市内だけでなく、ホームステイ中の海外方の参加がありました。

課題/解決に向けての取り組み

課題

① 初心者の方も継続参加の方も楽しめるプログラムの工夫

② 本教室終了後に柔道を始めたいと思う子どもたちを受け入れてもらえる柔道クラブチームとの連携

③ 子育てに関する悩みを語れる場所づくり

解決に向けての取り組み

① 初心者、柔道の習熟度、子どもたちの成長段階などに配慮しながら、安全な転び方のプログラムを基礎に指導者の先生方が必要に応じて柔軟な指導をされました。

② 連携団体が１つ増えました。熊本柔友会、拓陵館の先生がご協力くださいました。
③ 公認心理師の先生による指導者に向けての事前指導、教室開催中の参加者の見守りや声掛け、子育て相談のご協力がありました。教室の第１回では、「バースデーライン」（アイスブレイク）を行いました。参加者の皆さんが話しやすい、和やかな雰囲気を作ってくださいました。

「バースデーライン」
ジェスチャーで誕生日を伝え合いました。

「号令係」
みんなの前で号令をかけてくれました。

「後ろ受け身」　全員で練習しました。

「帯取り（しっぽとり）ゲーム」
ボランティアの高校生と一緒に楽しみました。

今後の展開

運動の得意・不得意に関わらず、障がい、年齢、性別に関係なく、一人ひとりに発達段階に配慮しながら、優しく、楽しいユニバーサルな柔道教室を目指しています。また、柔道を通して、親子で楽しく体を動かしながら自然にスキンシップが図れる場所、子育て世代の交流の場としても活用いただける環境を作っていきたいと考えています。

連携団体

〈団体〉　・熊武会（フリーサークル）　・熊本柔友会　・拓陵館

本年度は、高校生のボランティアの協力がありました。

ユニバーサル親子柔道教室は、活動の主旨に賛同くださった柔道指導者の先生、心理カウンセラーの先生お一人おひとりのご協力のもと教室を開始することが出来ました。

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		HP・SNS 等
ma.ma.ma.judo@gmail.com 担当者名：おりお　れな		

特定非営利活動法人
教育支援プロジェクト・ マスターズ熊本

活動を始めるきっかけ/活動概要

子どもを取り巻く環境が複雑化する中、保護者だけで子どもの健全な成長を支えることは難しくなっています。そこで地域と連携し、つながりを通じて子育てを支える仕組みづくりを進めてきました。社会の変化により保護者が孤立しやすい現状を踏まえ、年齢に応じた情報提供の講座や交流型ワークショップを実施し、悩みの共有や視点の転換を促します。これにより、保護者の精神的負担を軽減し、子育てを前向きに楽しめるよう意識改革を図ることを目的としています。「親も子も学ぶ」をテーマに、子育て中の保護者や教育関係者を対象とした「親子の学び成長を応援するセミナー」を開催しました。座学セミナー（全 4 回）では、絵本や感情の言葉かけを通じた子どもの発達支援について学びました。親子体験型学習（全 2 回）では、自然素材を使った草木染や江津湖での野鳥観察を行い、親子の探究心と感性を育む機会を提供しました。

重点的に取り組んだこと/成果

今年度は、保護者が落ち着いて学べる環境づくりを重視し、無料の託児サービスを実施しました 。これにより「話をしっかり聞くことができた」「リフレッシュできた」といった声が多く寄せられました 。 また、絵本講座では「自分だけの絵本を選んでもらえて涙が出た」という感想や 、野鳥観察では「江津湖の自然に驚いた」などの反応があり 、参加者の知識や地域への関心が深まりました。これらの活動が評価され、令和 7 年度「家庭教育支援チーム」文部科学大臣表彰を受賞する成果につながりました。

課題/解決に向けての取り組み

■　参加および託児サービスの無断キャンセル
当日の無断キャンセルが複数発生した。託児枠の確保やスタッフ配置に影響が出た。
事前の参加費徴収やキャンセルポリシーの明確化を行い、利用者の理解と協力を得ながら、持続可能な託児運営を目指す。
■参加者同士のつながりの継続
講座内では交流が生まれる一方、継続的なつながりを維持する仕組みが十分ではなかった。
講座後のフォローアップや情報共有の場を設け、学び合いが継続するコミュニティづくりを目指す。

今後の展開（予定）

文部科学大臣表彰受賞の実績を活かし、引き続き「家庭教育支援チーム」として、親子が共に成長できる学びの場を提供していきます 。座学と体験活動を組み合わせたプログラムを継続し、地域全体で子育てを応援するネットワーク作りを推進します。また、SNS など子育て世代の人に情情報

が届くようツールを活用して多くの人の参加が可能にしてまいります。

開催の内容や講師の紹介

〈座学セミナー〉6/15（日）・7/27（日）・8/24（日）・11/9（日）　全 4 回

絵本講座：「心を育みそだてる絵本との出会い」他　講師：吉田美樹氏（絵本専門士）

子育て講座：「親育ちセミナー」　講師：緒方清美・民長博美氏（当団体理事）

感情の講座：「親子で育む『感情の言葉』　講師：堀川香代氏（カウンセリングルームら・らぽーと代表）

〈親子体験型学習〉9/28（日）・12/14（日）全 2 回

草木染体験：「自然素材で楽しむ親子アート」　草木染体験
講師：八木はるな氏・清水妃文氏（九州森林インストラクター）

野鳥観察：「親子で楽しむ江津湖の野鳥」　講師：田中忠氏（熊本市愛鳥教育研究会会長）

専門家の言葉に真剣に耳を傾け、子どもに“学ぶ背中”を見せる大人たち。
５年目の今、リピーターが増え続ける理由がここにある

子育て経験者だからできる
安心の託児サポート

親子で楽しむ草木染　世界にひとつの“思い出ランチマット
桜もビワも栗もヨモギも、すべてが“学びの材料”になる

		HP・SNS 等
mastarskuma@gmail.com	民長博美　050-3553-3683	

ひご Pecs サークル

活動を始めるきっかけ/活動概要

本サークルは 2015 年より活動を開始し、発達障害のある子どもたちのコミュニケーション支援を目的として、PECS の普及と実践支援に取り組んできました。
発達障害のある子どもたちの中には、自分の意思や要求を言葉で表現することが難しい児童が多くいます。そのため、伝えたい思いが伝わらないことによる不安や混乱が生じ、問題行動として表れる場合も少なくありません。
本サークルでは、絵カードを用いたコミュニケーション指導法である PECS（Picture Exchange Communication System）を活用し、子どもたちが安心して意思を伝えられる環境づくりを目的として活動しています。PECS は視覚的に分かりやすく、家庭・学校・地域など様々な場面で活用できるコミュニケーション支援方法です。また近年では、iPad アプリ（PECS Talk）など ICT 機器も活用しながら、子どもの特性や発達段階に応じた柔軟な支援を行っています。
支援者や保護者が PECS の理念と実践方法を学ぶことで、子どもたちが自分の思いを安心して伝えられる社会環境づくりを目指しています。

重点的に取り組んだこと/成果

本年度は、支援者および保護者への理解促進と実践力向上を目的として、PECS ワークショップの開催、個別実践練習および保護者向け勉強会、会報による情報発信を行いました。

PECS ワークショップでは、児童発達支援センターGIFT 様からの依頼を受け、職員を対象とした研修を実施しました。会場には約 20 名の職員が参加し、別会場への Zoom 配信も行われました。講義では PECS の基本理念と支援の考え方を説明し、後半ではフェーズ 1～2 の実践演習を行いました。参加者には絵カードと強化子を用いたコミュニケーション支援を体験してもらい、現場で活用できる具体的な支援方法について理解を深める機会となりました。質疑応答では多くの質問が寄せられ、現場での実践への関心の高さがうかがえました。

また、PECS 実践練習および保護者向け勉強会を年間 4 回実施しました。要求表出の練習や語彙拡充のためのカード追加支援、iPad 版 PECS アプリ導入支援など、子どもの特性や家庭環境に応じた個別支援を行いました。初導入のケースでは、短時間のトレーニングで自発的なカード使用が見られるなど、子どもが自分の意思を伝える経験を積むことができました。保護者からは、子どもが援助を求めたり困りごとを伝えたりできるようになったことへの喜びの声が寄せられました。
さらに、7 月・9 月・11 月・1 月・3 月に会報を発行し、活動報告や発達支援に関するコラムを掲載しました。継続的な情報発信を通して、保護者や関係機関への理解促進を図りました。
これらの取り組みを通して、支援者・保護者双方の PECS への理解が深まり、子どもたちが安

心してコミュニケーションできる環境づくりが地域の中で少しずつ広がっています。

課題/解決に向けての取り組み

一方で、PECS によるコミュニケーション支援の必要性が十分に周知されておらず、必要としている家庭や支援者に情報が届いていないという課題があります。また、勉強会を開催するための会場確保も難しく、活動の継続や拡充に影響が出ています。
保護者からは「学校の先生にも PECS を学んでほしい」という声も寄せられており、家庭だけでなく学校や地域全体で子どものコミュニケーションを支える体制づくりが求められています。今後は関係機関との連携をさらに深め、支援の輪を広げていく取り組みを進めていきます。

今後の展開

今後は、熊本市こども・子育て応援サイトや SNS などを活用しながら、活動内容や PECS の実践事例を広く発信していきたいと考えています。
また、発達障害のある子どもの子育てに役立つ工夫や保護者の体験談なども共有することで、同じ悩みを抱える家庭の参考となる情報提供を行っていきます。
地域の支援者・保護者・関係機関がつながり、子どもたちが安心してコミュニケーションできる社会環境づくりに貢献していくことを目標として、今後も活動を継続していきます。

連携団体

ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン
NPO 法人就労特化型支援団トリニティ
子ども発達支援モーツアルト

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

✉	📞	HP・SNS 等
pecs@malu2kucing.com	096-282-6035 担当者名：大塚志津子	ひごPecsサークル ひご Pecs サークル HP

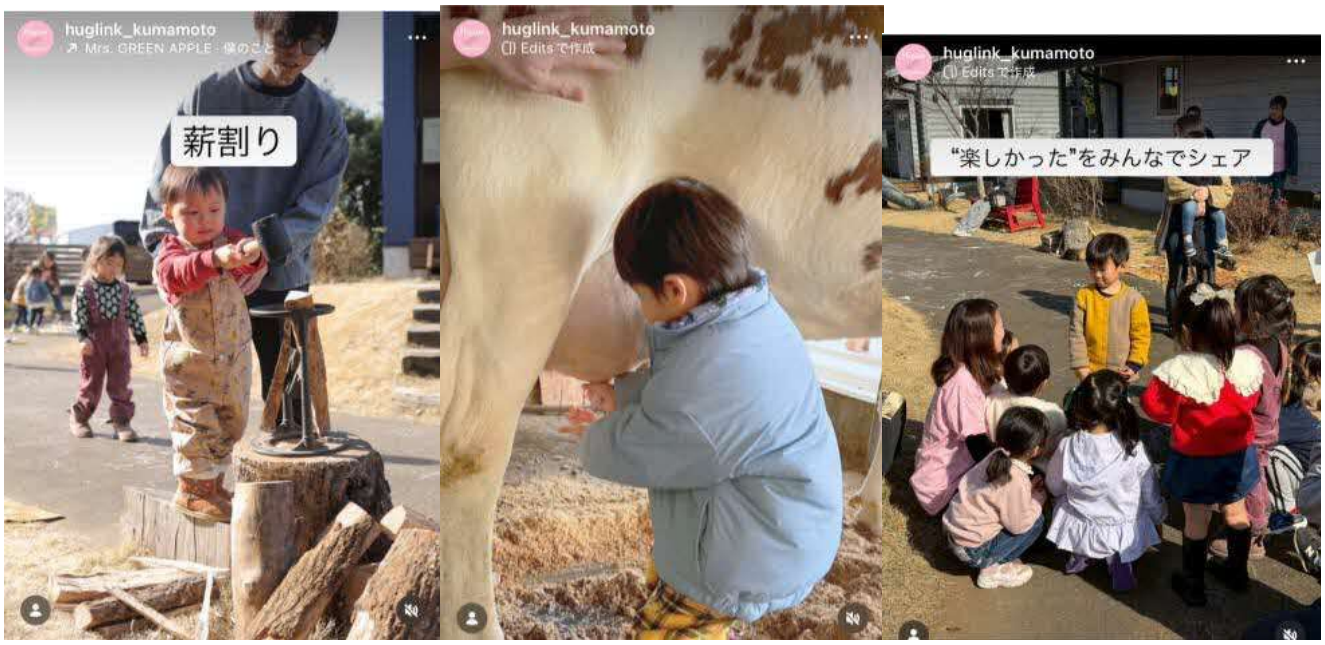
HugLink＋kumamoto

活動を始めるきっかけ/活動概要

子育てに悩んでいる親のために「こどもを真ん中に据えて、みんなで育てる」「できないことを、一人ではなく、みんなでする」「パパ、ママが安心して活動できる」を合言葉に活動を始めました。こどものわくわくを引き出すことを目指して、親子で一緒に体験できる活動を実施しています。

重点的に取り組んだこと/成果

【活動回数】月 1 回程度
【活動場所】熊本市中央区にある「はあもにい（男女共同参画センター）」や熊本市内の公民館、熊本市北区の立田山自然公園など、熊本市内を拠点として活動
【参加人数】約 100 家庭（300 人程度）
【主な参加者】幼児（または低学年児童）とその保護者
【重点的な取り組み】
乳しぼり体験、火起こし体験、全身を使った絵具遊びなど、こどもたちが日常生活では体験できないことや、家庭で取り組むにはハードルが高いことなどを中心に、親子で一緒に活動できることを計画・実施しました。さらには、こどもへの声かけに悩んでいる親のために、声かけのポイントが記されたシートを配布するなど、親子のよりよい関係づくりができるように支援しています。
【成果】
体験活動を通して、こどもたちは新たな気づきを得ることができます。例えば、乳しぼり体験を通して「いつも飲んでいる牛乳は冷たいのに、牛から出てくるミルクは温かい」ことに気づきます。オール電化の過程では見ることのできない火を起こすために、薪割りをしたり火種に花火を散らしたりすることで、「簡単に『火』を手に入れることが出来ないのだ」とすることができます。こんな非日常のわくわくする体験をしたこどもたちは、「ミルクが温かかった。牛も温かかった。」と、命の存在を認識します。「火起こし大変だったけど楽しかった」など自然の神秘に感動します。そして次第に、つたない子渡場ではありますが、自分の内面にある『わくわく』を、自分の子渡場で精いっぱい表現できるようになります。活動の最後に行う「感想発表会」では、たくさんのこどもたちが、自分の気持ちを表現できるようになりました。



課題/解決に向けての取り組み

本格的な活動開始から 1 年ほどが経ち、本団体の認知も広がってきました。それに伴い、参加希望の方が増え、先着順にしている申し込みは、申し込み開始とともに枠が埋まっています。希望される方がより多く参加できるように、人気の活動は半日開催のものを、午前と午後の二部制で再度開催したり、1 回の人数を増やしたりして対応してきました。下記チラシは、2 月開催の「ブラックライト絵具遊び」が過去最大の希望数だったため、参加できなかった人のために、3 月に午前・午後の部として追加で実施した時のチラシです。一方で、回数を増やすことでスタッフの負担も増えるため、参加者の中でご協力いただける方が運営側に回ってくださり、お手伝いいただくこともありました。これからは、みんなで活動をつくりあげる団体に育てていきたいです。

今後の展開

ある活動のアンケートで「こどもへのよりよい関わり方を知ることができた」という保護者の声をいただきました。こんな声を増やせるように、より多くのご家庭に参加いただける活動を今後も計画していきたいです。

連携団体

・miyuki art Labo（熊本市東区若葉：健軍商店街内）：アート体験
・株式会社　オオヤブデイリーファーム（熊本県合志市須屋）：乳しぼり体験　など
・BESS 熊本（熊本市北区植木町岩野）：火起こし体験など
・熊本市男女共同参画センターはあもにい（熊本市中央区黒髪）：室内イベント会場
・ゆるふわり助産院：子育て講座
・オーガニック夢’s：子育て講座

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		HP・SNS 等
	担当者 名：	【Instagram】 @huglink_kumamoto 毎月１回の活動は、Instagram で募集します。 申し込み・問い合わせはＤＭからです。 また、不定期で子育て情報も掲載していますので ぜひ登録してください。

村上直子事務所

活動を始めるきっかけ/活動概要

近年、「多様性」「自己責任」「自分らしさ」といった言葉を耳にする機会が増えました。しかし一方で、自分らしさとは何か、どう自分らしく生きればよいのか分からず、生きづらさを抱える若者も増えています。日本においては 10～39 歳の死因の第 1 位が自殺であるという現状もあり、若い世代への早期の自己理解支援の重要性が高まっています。
過去、IT 企業エンジニアとして 12 年勤務し全国の多くの方々と仕事をする中で一人ひとりの個性や特性、捉え方や考え方の違いがあるからこそ、それらを活かしあうことの大切さを私自身が学びました。チームメンバーの個性や特性を知り得意なことを任せたり、問題を 1 人で抱え込まずにチームとして取り組むための心理的安全性の高いチームづくりによる成果、効果を実感してきました。同時に、そのような状態、環境をつくる難しさも感じてきました。その後、産後心理カウンセラーとして活動し、メンタル・フィジカル・ファイナンスの視点から個性特性に合わせた支援を行ってきました。保育園勤務や養育里親として子どもと関わる中で、若い世代への支援は変化率が高く、自己理解が深まることで表情や言動が大きく変わることを実感しています。学校や家庭に居場所がない状況にある中高生世代とその保護者が孤立せず、自分らしく心地よく生きる力を育む場をつくることを目的に、『自分の強み発見ワークショップ』を実施しました。

重点的に取り組んだこと/成果

① 自己理解を深めるワークショップ
適性判断を活用し「自分の今の強み」を数値で可視化。自分が力を発揮しやすい環境や他社との違いを整理し、自己理解を深めました。今の自分の状態を知ることが、客観的に自分を俯瞰してみてみることで、子どもに対しても違う視点でみてみる、特性の違いによる対話のコツなどを学びました。その結果、表情が明るくなったり、進路を「他社比較」ではなく「自分の強み」視点で考えてみる視点もうまれていました。

② 個別相談
希望者には個別相談を実施し、ご自身の感情整理や言語化、過去の出来事で昇華されていない様々な想いを奏したいか自分にきいてみること、など個々の状態状況に合わせてカウンセリングとコーチングを用いて今の自分の状態を知っていくことからスタートしました。その人のペースに合わせて今の自分がどうしたいかを大切にしながら具体的な行動整理を行いました。その結果、「強みをどう活かすか」という視点への転換や、自分に合った工夫ができるようになった方もいました。

課題/解決に向けての取り組み

① 参加機会の継続性と柔軟性
・月１回開催では日程が合わず参加できない子どもがいた
・体調やメンタル状況により当日参加が難しいケースがあった
→開催頻度を増やしたり、オンライン参加やアーカイブなどの検討
② 支援体制の拡充
・個別相談が長時間化する傾向があり、継続実施には人的負担が大きい
・専門的支援が必要なメースも想定される
→スタッフの育成や外部専門家との連携を強化
③ 成果の可視化
・今回の成果は表情・発言・関係改善が中心であり、数値化が難しかった
→どのような評価軸があるのかを調査

今後の展開

「自分の強みを生かしている大人」という出会う時間を増やしていくことを検討しています。東耕平さんは、メンタル・フィジカル・ファイナンスの視点から個性特性に合わせた支援を行ってきた 1 人だったため、本事業で自分の経験をお話しいただき、アート事業の一環として行われている新聞紙を使ったワークショップを行っていただきました。そのため参加された方は、自己理解を深めたその先がイメージしやすく、自分の強みはどう活かせるのだろうか？という視点で感じること、考えることが出来たのではないかと思っています。

東耕平さん「自分の強みをどう活かしているか」講演とワークショップ

連携団体

■ユースセンタートリノスミカさん
■彫刻家　東耕平さん

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

	担当者名：	HP・SNS 等 Naoko Murakami Office｜個性や特性を活かし、循環をつくりだす

田崎げんきもりもりハウス（社会福祉法人グリーンコープ）

活動を始めるきっかけ/活動概要

「食育の会わくわく」が講師となり、子どもたちに自分で調理することの楽しさ、災害が起きた時に役立つ知識の習得、できたことをお互いに褒めて一緒に食事をすることで深まる関係作りを行った。

① 2025 年 6 月 21 日 「白玉あんみつ作り」

白玉団子を作って、湯がく。くだものを包丁で切る。盛り付ける。初めて体験する子どもも多く、やけどをしないように、手を切らないように。難しいことがいっぱいだったけど先生の言うことを守って完成した。

② 2025 年 9 月 20 日「防災食つくり」＜ メニュー 白ご飯、炊き込みご飯、キャベツの卵とじ、簡単みそ汁、バナナとレーズンの蒸しパン ＞

災害が起こると、水が止まり電気もつかない。そんなときでも温かいいつもの食事ができるように…カセットコンロを使ってポリ袋クッキングをした。

③ 2025 年 12 月 20 日「クレープ作り」

鉄のフライパンで薄く焼くのはとっても難しかった。上手にできてもできなくても、みな満足そうに食べて楽しんだ。バナナとチョコが人気だった。

④ 2026 年 2 月 28 日「肉まん・あんまんつくり」

発酵した生地を薄く延ばして、肉とあんこの 2 種類を包んだ。はみ出さないように薄く引っ張りながら包むのは難しく、周りと相談して見比べながら自分の分を作った。

重点的に取り組んだこと/成果

自分が食べているものの材料は何なのか、どうやって作られているのか、を知らない子どもたちが多い。しかし、調理に興味がある子どもは多く、居場所でもおにぎりやパンケーキなど簡単なものは子どもと作ることはある。今回は講師を招き、包丁や火を使う調理に挑戦した。
「子どもにはできない」「子どもは触らない」ではなく、「何でもやってみる」「自分にもできる」の体験を通して成長している子どもたちの姿を見ることができた。
協力して野菜を切り、調味料を量り、鍋に材料を入れて調理をする。専門の講師がいたから、初めてやる子どもでも怪我をしないように教えることができ、とてもよかったと思う。

課題/解決に向けての取り組み

子どもだけ、親子の参加が多かったが、近くには一人暮らしの高齢者もたくさん住んでいらっしゃる。幅広い年齢層に来てもらい、多世代で料理の楽しさを分かち合う交流ができれば、引きこもりがちな高齢者や子育て世代の居場所になるので、地域への宣伝や SNS を活用して広くお知らせをしていきたいと思っている。

今後の展開

定期的にいろんなメニューに挑戦して料理の楽しさ、自分でやることの大事さを子どもたちに伝えていきたい。

連携団体

グリーンコープ生協くまもと　生活再生相談室
社会福祉法人グリーンコープ　子育てサポートセンターぽっかぽか
子育てサポートセンターペペペペらん

✉	📞	HP・SNS 等
jvkodomo@greencoop.or.jp	096-227-6520 担当者名：吉岡	https://www.fukushi-greencoop.or.jp/office/317

社会福祉法人グリーンコープ　子育てサポートセンターぺぺぺぺらん
　みんなの居場所　三里木げんきもりもりハウス

活動を始めるきっかけ/活動概要

2021 年 10 月に開所し、社会福祉法人グリーンコープ子育てサポートセンターぺぺぺぺらんの子育てワーカーが専任スタッフを担い、子どもたちが孤立感や人との関わりに不安を感じることなく、信頼し安心して過ごすことができる世代間交流の居場所づくりをすすめてきた。

重点的に取り組んだこと/成果

今年度は参加者全員で楽しみ、子どもたちが主体的に取り組むクリスマス会となるよう企画した。

・NPO 法人子育て支援ワーカーズぺぺぺぺらんのクリスマスおはなし会を初めて企画開催
　心を育む言葉の世界を居場所に集う皆で楽しみ、和やかな時間を共有できた。
・隣接する福祉センター三里木へプレゼント訪問＆交流会
　子どもたち手づくりのクリスマス壁面飾りを作り、施設のご利用者一人一人にサンタの折り紙を手渡しした。
・手づくりおやつ：チョコバナナケーキ作り
・ビンゴ大会：グリーンコープに関わる地域の方々からの寄付もあり、ワクワク感いっぱいで盛り上がった。

福祉センターへ手づくりのクリスマスプレゼント作成やおやつ作りを通して、子どもたちの達成感と協働性を育むことができた。

課題/解決に向けての取り組み

居場所の活動の情報発信の充実を図り、地域ボランティア・学生ボランティアの参加を増やし、地域福祉に繋がる取り組みを拡げていく。

今後の展開

・開所当初より第３土曜日開所日に加え、毎週水曜日の放課後を開所する。
・新たに大学生ボランティアを募り、小学生の学習をサポートする取り組みをすすめていく。
・食育の取り組みの充実：土曜日開所日に昼食となるような食事づくりに取り組んでいく。

連携団体

・グリーンコープ生協くまもと生活再生相談室
・社会福祉法人グリーンコープ福祉センター三里木
・菊陽町社会福祉協議会

問い合わせ

✉	📞	HP・SNS 等
jvpe4ran@greencoop.or.jp	096-200-1489 担当者名： 富田、高橋	HP： https://www.fukushi-greencoop.or.jp/office/300 Instagram：pepepeperan_kosodate

団体名	メンタルサポート研究所グループ 熊本シャムロック	保育者の子育て塾
活動を始めるきっかけ/活動概要	実施回数：19回　参加人数：114名 子育てに関する悩みや不安を抱えながらも、相談先が分からず一人で問題を抱え込んでいる保護者が多い現状を受け、安心して学び合い、支え合える場を提供することを目的に本事業を実施した。中学生以下のこどもを持つ保護者を対象に、南区・西区・中央区の3会場で「笑顔のプログラム（ペアレントトレーニング）」を開催した。心理士や心理カウンセラーを講師に迎え、こどもの行動理解や適切な関わり方、褒め方や指示の出し方などについて、実践的な学びの機会を提供した。	実施回数：33回　参加人数：1,323名（こども714名・大人609名） 初めての子育てに悩む母親に「こどもとの遊び方を伝授する」と同時に、心配や不安、孤独を支える「育児支援の居場所作り」をすることが活動目的である。主な活動として、公民館等で月2回の「体軸セラピーとリズム運動遊び」や集団遊び、わらべうた遊びを実施するとともに、月1回程度の発達や子育てに関するプチセミナーを開催している。
重点的に取り組んだこと/成果	保護者がこどもの行動や心理状態を正しく理解し、肯定的な関わり方を身に付けられるよう、ペアレントトレーニングを継続的に実施した。また、講座の中で参加者同士が悩みを共有できる環境づくりを重視し、子育てに関する相談や交流の機会を設けた。その結果、参加者からは「こどもへの接し方が分かるようになった」「気持ちに余裕が生まれた」といった声が聞かれた。また、不登校やひきこもりなどの悩みについても相談できる場となり、保護者の不安や孤立感の軽減につながった。さらに、参加者同士のつながりが生まれ、互いに支え合う関係性の形成や自己肯定感の向上が見られた。	講師が「体軸」資格を取得したことを機に、活動内容やイベント名称を見直し、乳幼児期の身体づくりをテーマとした広報を強化した。その結果、子どもの発達や運動機能の向上に関心のある親子の参加が増加し、特に0歳児の参加者が大幅に増えた。また、継続的な活動が地域で認知されるようになり、幼稚園や保育関係団体、行政機関等から研修や講座の依頼を受けるなど、活動の広がりにつながった。
今後の課題・展開	子育てに関する不安や悩みは継続的な支援が必要であることから、今後も継続して学びと相談の場を提供していく必要がある。また、必要な支援を求めながらも参加に至っていない保護者層への周知方法の工夫や参加促進が課題である。今後は、より多くの保護者が気軽に参加できる環境づくりを進めるとともに、関係機関との連携を強化し、地域全体で子育て家庭を支えるネットワークの充実を図っていきたい。	参加者のニーズに応じた学びと交流の機会を提供しながら、子どもの発達を支え、保護者が安心して子育てについて相談できる居場所として活動を継続していくことが課題である。今後は、地域の関係機関や子育て支援団体との連携をさらに深めるとともに、より多くの親子に活動を知ってもらい、参加しやすい環境づくりを進めていきたい。
連携団体	地域の幼稚園・保育園、近隣店舗（チラシ配布協力）、後任心理士　安徳寿賀子氏、上級心理カウンセラー　島村和子氏、上級心理カウンセラー　丸山清子氏	YMCA水前寺幼稚園、各地区ママパパ教室、熊本市各区保健こども課、熊本県保育協会（保育園連盟）、大分県公立幼稚園関係研修会、市内外の幼稚園・保育施設等

団体名	壺川小学校おやじの会	はんなり日和
活動を始めるきっかけ/活動概要	実施回数：13回　参加人数：2,360名 壺川小学校の子どもたちの健全育成と、保護者同士や地域とのつながりづくりを目的として活動している。学校や地域行事への参加・協力を通じて、子どもたちが安心して楽しめる体験の場を提供するとともに、保護者や地域住民が交流できる機会づくりに取り組んでいる。季節行事やレクリエーション活動の企画運営のほか、学校環境の整備や地域イベントへの協力など、幅広い活動を展開している。	実施回数：3回　参加人数：176名（こども66名・大人110名） 子育て中の母親は、自身の心身のケアに十分な時間を確保することが難しく、疲労やストレスを抱えながら日々の育児に向き合っている。そこで、母親が安心してリフレッシュできる機会を提供し、子育てを前向きに楽しめる環境づくりを目的として活動を開始した。保育士による託児とリラクゼーションを組み合わせ、未就学児を子育てする母親が気軽に参加できるイベントを開催している。
重点的に取り組んだこと/成果	子どもたちが主体的に参加し楽しめるイベントづくりに重点的に取り組み、「七夕の会」「水鉄砲バトル」「チャンバラ大合戦」「6年生を送る会」などを開催した。また、学校や地域行事への積極的な協力や継続的な広報活動により、おやじの会の認知度向上につながった。その結果、新たな会員の加入やイベント時の協力者が増加し、活動を支える人材の裾野が広がった。さらに、PTAとの協働も定着し、子どもたちのために連携して事業を実施する体制づくりが進んだ。	母親が安心して自分のための時間を過ごせるよう、保育士による無料託児体制の充実に重点的に取り組んだ。その結果、参加者からは「リラックスできた」「自分自身を大切にすることの重要性に気付いた」といった声が寄せられ、心身のリフレッシュや育児への意欲向上につながった。また、保護者と子どもが一時的に離れて過ごすことで、親子の愛情や信頼関係を再確認する機会にもなり、子育てに対する前向きな気持ちの醸成に寄与した。
今後の課題・展開	活動を継続・発展させるためには、新たな会員や協力者の確保が重要な課題である。今後も学校やPTA、地域団体との連携を強化しながら、多くの保護者が参加しやすい活動環境づくりに取り組む。また、これまで培ったネットワークを生かし、子どもたちの思い出づくりや地域との交流につながる事業をさらに充実させていきたい。	より多くの子育て世帯が利用できるよう、活動の認知度向上と参加者層の拡大が課題である。今後はSNSを活用した情報発信を継続するとともに、子育て支援に関わる団体との連携を深めながら、継続的に利用できる居場所づくりや、母親同士の交流につながる機会の充実を図っていきたい。
連携団体	壺川小学校、壺川小学校PTA、壺川校区自治協議会（地域団体）、校区内各種地域団体	保育士スタッフ、リラクゼーション施術者（セラピスト等）、子育て支援に関わる地域団体・関係機関

団体名	NPO法人こころサポート熊本	はっぴいろーどサポート
活動を始めるきっかけ/活動概要	実施回数：12回　参加人数：60名 子育てに対する不安や孤立感を抱えながら育児を行う保護者が安心して学び、相談できる場を提供したいとの思いから活動を開始した。上級心理カウンセラーを講師に迎え、「こどもと笑顔で過ごすためのプログラム」を全12回実施し、子どもへの適切な関わり方や感情との向き合い方、ペアレントトレーニングなどについて学ぶ機会を提供した。	実施回数：7回　参加人数：84名（こども28名・大人56名） 社会的な課題となっている若者の就労困難や引きこもりについて学ぶ中で、幼少期からのキャリア教育の重要性を感じ、活動を開始した。子育て講座や料理体験、伝統文化体験などを通して、子どもの主体性を育むとともに、親子や地域住民の交流の機会づくりに取り組んだ。
重点的に取り組んだこと/成果	保護者が子どもの心理や発達を正しく理解し、肯定的な関わり方を身につけられるよう支援した。また、参加者同士が悩みや経験を共有できる環境づくりに努めた。その結果、子育てに対する不安やストレスの軽減につながり、保護者の心の安定や子どもの自己肯定感の向上、親子の笑顔の増加が見られた。	保護者向けの子育て講座では、子どもの個性や成長に合わせた関わり方を学ぶ機会を提供し、参加者からは子育ての参考になったとの声が寄せられた。また、料理体験や浴衣着付け体験などでは、子どもたちが主体的に取り組む姿が見られ、自立心や挑戦する意欲を育む機会となった。さらに、親子や地域住民が交流することで、新たなつながりづくりにもつながった。
今後の課題・展開	継続的な学びや相談の機会を確保し、より多くの子育て世帯へ支援を届けることが課題である。今後は参加者同士のつながりをさらに深めるとともに、不登校や発達の課題など多様な悩みに対応できる相談支援体制の充実を図り、地域における子育て支援の拠点づくりを目指す。	事業開始当初は周知期間が短く参加者が限られたため、今後はSNSや口コミに加え、地域団体等との連携を強化しながら広報を充実させていく必要がある。引き続き親子が参加しやすい環境づくりを行うとともに、子育て支援や体験活動の内容を充実させ、より多くの地域住民が継続的に関われる場へ発展させていきたい。
連携団体	近隣の幼稚園・保育園（チラシ配布等による広報協力）、地域の店舗（チラシ掲示による広報協力）、上級心理カウンセラー（島村香葉氏、野口よち子氏）、子育て支援に関心のある地域住民及び参加者ネットワーク	platinumangel、南国厚生有限会社、着付け師 大津真由美氏、パワーストーンカフェGyoku、有限会社アースネット、地域住民・参加者ネットワーク

団体名	植木寺子屋山東塾運営委員会	『Team延壽院』
活動を始めるきっかけ/活動概要	実施回数：4回　参加人数：222名（こども93名・大人129名） 地域の子どもたちが学校以外でも多様な学びや体験ができる場をつくり、地域とのつながりを深めてほしいとの思いから「寺子屋山東塾」の活動を開始した。そうめん流しや芋掘り、餅つきなどの体験活動を通して、子どもたちの学びや交流の機会を提供した。	実施回数：11回　参加人数：345名（こども263名・大人82名） 地域の子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりと、多様な体験を通じた健全育成を目的として活動を開始した。放課後学習室を中心に、自然体験、宿泊体験、こども食堂、保護者向け講座などを実施し、子どもと保護者が地域の中でつながりながら成長できる環境づくりに取り組んだ。
重点的に取り組んだこと/成果	地域住民の協力を得ながら、農業体験や食育体験、伝統行事を取り入れた活動に重点的に取り組んだ。その結果、子どもたちが地域の文化や歴史に触れる機会が増え、世代間交流が深まるとともに、地域全体で子どもの成長を見守る意識の醸成につながった。	体験活動の充実に重点的に取り組み、学習支援や自然体験、宿泊体験、食を通じた交流の機会を提供した。また、活動全体を通して「防災」と「思いやり」をテーマに据え、相手を尊重する心や協力する大切さを伝えた。その結果、多くの子どもや保護者が参加し、地域住民との交流が深まるとともに、地域全体で子どもの成長を見守る機運の醸成につながった。
今後の課題・展開	参加者の輪をさらに広げるため、保護者や地域住民に加え、高校生や大学生など若い世代の参画を促進していく必要がある。今後も継続的な体験活動を実施し、子どもの健全育成と地域コミュニティの活性化につなげていきたい。	子どもの支援を行う中でも、保護者の役割や家庭とのつながりを大切にし、家族の絆を支える活動をより充実させていく必要があると感じた。今後も、防災教育や世代間交流の機会を拡充し、子ども・保護者・地域住民がともに支え合える地域づくりを推進していきたい。
連携団体	山東小学校、山東小学校PTA、山東校区自治協議会、山東校区自治会、女性の会、地域協力者・ボランティア団体、山東コミュニティセンター	花園まちづくりセンター、校区子育てネットワーク関係団体、消防団、防災士、PTA、保育関係者、保護司、地域住民・ボランティア、地域寺院（放課後学習室運営）

団体名	ベイビー・マミー・サロン
活動を始めるきっかけ/活動概要	実施回数：27回　参加人数：319名（こども104名・大人215名） シェアキッチンやコワーキングスペースを備えた居場所を常設し、支援対象者が趣味と実益を兼ねた作業を行ったり、夢の実現に向けて一歩踏み出すきっかけづくりの場を無償提供。足りない生活費を補えるような自立支援を目指している。
重点的に取り組んだこと/成果	母子ともに生きる力を養っていくために専門機関との連携を強め、専門機関と協働・調和することによって周りの理解を深め、より協力を得ることができるようになってきている。
今後の課題・展開	・短期ビジョン：「お泊り会」の実施で、反抗期の親子関係に少し距離感を保つ。 ・中期ビジョン：稼げるNPO法人を目指し、ひとり親家庭の収入源ともなれる立ち位置を目指す。 ・長期ビジョン：心の病を持つ親御さんのリワークシステムを構築して、子どもたちの健全育成を図る。
連携団体	反貧困ネットワーク熊本、グリーンコープLifeSupport生活再生相談室、熊本県弁護士会、熊本県社会福祉士会、熊本県行政書士会　他

あきた寺子屋食堂

活動を始めるきっかけ/活動概要

子育て世帯への応援や、一人暮らしの高齢者支援、地域の世代間交流の場など、お世話になっている地域への恩返しと、人が繋がり暮らしやすい地域の創造に少しでも貢献できたら・・そんな思いで「あきた寺子屋食堂」を始めました。

毎月第一土曜日の１１時３０分と、１２時３０分から（二部制）低額で食事の提供をおこなっています。(会費：幼児無料、小学生１００円、一般３００円)
また、パントリーもおこなっており、子育て世帯と独居高齢者世帯へ適時食材の提供をおこなっています。

重点的に取り組んだこと/成果

あきた寺子屋食堂では、「参加者が大切にされていると実感できる場づくり」を重点目標として取り組んでいます。単なる食事提供にとどまらず、料理を通じて安心感や温かさを届け、こころの充足にもつながる支援を目指しています。

その実現のため、運営メンバー間では「心を込めて、お一人お一人を大切にしましょう」という共通の合い言葉を掲げ、常に相手の立場に立った食事づくりを徹底してきました。これにより、作業としての調理ではなく、想いを届ける行為としての意識統一を図っています。
具体的な取組としては、年間を通して同一メニューの繰り返しを行わず、毎回新たな献立を考案し提供しています。また、栄養バランスだけでなく、彩りや盛り付け、提供のタイミングにも配慮し、「目で見て楽しめる」「食べて満足できる」食事の提供に努めてきました。

これらの取組により、参加者からは満足度の高い評価を得ており、定員を上回る申込みが継続している状況です。今後も、食を通じた心のつながりを大切にしながら、地域における居場所づくりと相互支援の基盤形成に寄与してまいります。

課題/解決に向けての取り組み

あきた寺子屋食堂は、地域の方々のご理解とご協力のもと、継続的に安定した運営を行っており、参加者からも高い評価をいただいております。毎回手作りの食事を提供し、安心して過ごせる居場所づくりを大切にしてきた結果、参加者数も増加傾向にあります。

一方で、活動の充実に伴い、調理準備や衛生管理、子どもへの見守り対応など、スタッフ一人ひとりの負担が大きくなっているのが現状です。現在の体制でも運営は可能ではありますが、今後も安全性と質を維持し、さらに丁寧な対応を続けていくためには、運営スタッフの

確保および育成が重要な課題であると認識しております。

特に、子ども一人ひとりに目を配る体制を維持するためには、一定数の人員確保が不可欠であり、持続可能な運営体制の構築が求められています。

今後の展開

私たちの地域食堂・子ども食堂は、単に食事を提供する場ではなく、人と人とがつながる「地域の居場所」でありたいと考えています。現在、多くの方にご参加いただき、定員を超えるお申し込みをいただく中で、この場の持つ力と可能性を日々実感しています。

これから私たちが目指すのは、「受け取る場」から「つながりが循環する場」への発展です。ここで食事を共にした方々が、やがて誰かのために行動を起こし、ボランティアや地域活動へと関わりを広げていく――そのような“恩送り”の連鎖が自然に生まれるコミュニティを育てていきたいと考えています。

一人ひとりの小さな関わりが、やがて地域全体を支える力となる。その循環の起点として、この食堂があり続けること。それが私たちの願いであり、これからの目標です。

連携団体

熊本県こども食堂ネットワーク
フードバンク熊本

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

✉	📞	HP・SNS 等
ytennsei@yahoo.co.jp	０９０－１０８６－９２５７ 担当者名：吉尾天声	

こども食堂　おにぎりく Love

活動を始めるきっかけ/活動概要

実施場所である熊本市南西部は核家族化や共働き世帯の家庭が増加が進んでいる地域です。本活動はそのような世帯やこどもたちを主な対象として、こどもの孤食や孤立の防止を図るとともに、生活に困難を抱えるこどもたちへの支援を目的として活動しています。

重点的に取り組んだこと/成果

会食を実施することにより、子ども同士や高齢者とのコミュニケーションをとる事ができました。また、日ごろ食べることのない田舎料理を取り入れました。

課題/解決に向けての取り組み

作り手の人数不足により開催を延期することになり、今後は安定した運営のためにボランティアスタッフの確保・増員を視野に入れる必要があると感じました。
また、こどもたちがお友達を誘って参加するなど、より多くの方々に活動を知っていただき、地域に根差した活動として継続していきたいと考えています。
さらに、昨年に引き続き、高齢者や子どもの貧困の解消に向けた取り組みに努めていきたいと思います。

今後の展開

SNS や掲示板や口コミなどで参加者を増やし貧困で食事をとる事ができない人達に知ってもらい地域社会のコミュニケーション円滑化を図りたい。

連携団体

熊本市西区中島校区　こども食堂まんまる

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		HP・SNS 等
	担当者名：清田	Instagram

一般社団法人多世代交流スペースミモザ

活動を始めるきっかけ/活動概要

活動を始めるきっかけ：こどもの貧困率の高さ、高齢者の孤立化、学習や経験機会の不平等さを含むひとり親家庭への線の必要性を感じて。

活動概要：

① こども食堂の実施（毎月第２、４土曜日、夏休み、春休み時の水曜、土曜の軽食の提供、夏休み、クリスマス、春休みのイベント）

② 学び・遊びタイム（放課後、施設を開放、お菓子、パン、飲み物などの提供も行っている）

③ 食料・日用品の配布（フードパントリー）

重点的に取り組んだこと/成果

上記①、②、③それぞれに力を入れて活動した。

成果：

① 就学前のこどもから 90 歳過ぎの高齢者まで、様々な世代がこども食堂を利用。食事の提供だけでなく、時に友達との会話を楽しんだり、時にこどもたちや親子連れへの高齢者さんからの語り掛けがあったり、地域住民の交流の場となっている。

② 放課後、こどもたちが 10 人から 20 人当施設を訪れ、思い思いに宿題をしたり、ゲームをしたり、読書をしたり、みんなの居場所として定着した。

③ 米をはじめとしていただいた野菜、食料品を配布するとともに、毎週パンの配布を行うことで、支援が必要な人とつながりができ、ひとり親家庭さんや高齢者の方のこども食堂利用にもつながった。

課題/解決に向けての取り組み

物価高騰により、食材費諸々の費用がかさみ、また野菜やパンの寄附も少なくなっており、ひとり親家庭への支援にも限界を感じている。

また、安定的なボランティアの確保も課題である。

昨夏リーフレットを作ったので、この配布により広くミモザを知ってもらい、ボランティアや物資の支援、ご寄付などを呼び掛けている。

ボランティアへの参加については、近隣の高校などに呼び掛けていく。

今後の展開

・遊びと学習の空間が一緒だとどうしても落ち着かないので、こどもを見てくれるボランティアさんを確保し、1 階と 2 階で両者をわけたい。

・小学生の間は遊び優先で学習支援を利用するこどもは少ない。中学生になると定期試験もあり、自分の置かれている位置の確認もするようになるので、今後は学習支援の対象を中学生まで広げていく。

連携団体

熊本県こども食堂ネットワーク

フードバンク熊本

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		HP・SNS 等
hasekayo1015@outlook.jp	080-1744-5586 担当者名：長谷川佳代子	多世代交流スペース　ミモザ

こども食堂「寺子屋カフェ」

活動を始めるきっかけ/活動概要

（活動を始めるきっかけ）

息子のような存在だった人物が 3 歳の子どもを残して自死した事、また、大阪で DV 被害から逃げていた乳幼児を抱えた母子を支援につながることが出来ず、母子ともに餓死した事件を受けて、こども食堂をスタートしたことがきっかけです。

（活動概要）

・緊急時の対応：365 日 24 時間ご相談を受付中

・生活再建の為の家計の見直しと公的支援制度への伴奏型支援

重点的に取り組んだこと/成果

① 緊急時対応（支援物資の配布・傾聴支援・衣服の提供）

② 家計の見直し（生活再建）

③ 各家庭の問題の拾い出し（会食）

④ 「お福分け」で支援物資の配布/受け渡しの際に傾聴支援と問題の拾い出し

〈成果〉

・非正規雇用であった支援対象者が、正規雇用として就職できるようになった。

・生活困窮状態から生活再建に向けて歩み始めた支援対象者が、リワーク(社会復帰支援)の一環として、当会事務局の運営に携わり、現在では中心的な役割を担うようになった。

・支援対象者としての経験を持つスタッフが事務局に加わったことで、当事者目線によるきめ細やかな支援体制が整いつつある。

・リワークの一環である「シンママチャレンジショップ」での学びや経験が地域活動で役立ち、収入増につながっている。

・不登校のこどもを抱えた経験を持つひとり親家庭の母親が、その経験を生かしてこども食堂を新設し、同じ悩みを抱える母子支援を開始した。

課題/解決に向けての取り組み

伴奏型支援を効果的に実施するためには、福祉・教育・就労・医療・地域団体など、多様な関係機関との連携が不可欠である。そのため、専門的な知識やネットワーク構築のスキルが求められ、誰もが容易に取り組める支援ではない。

このような状況を踏まえ、伴奏型支援の担い手を育成するための専門的な学習会を開催し、「助け合い支援士(仮称)」の養成を進めることが喫緊の課題である。

また、「伴奏型支援養成講座」を継続的に実施するための経費が確保されれば、支援人材の育成が進み、より多くの困難を抱える方々への支援が可能になると考えている。

今後の展開

① リワークシステムの「シンママチャレンジショップ」拡充。障害や病気、生活困窮者によって日常生活や社会生活を送ることが困難な方々に対し「自分の力で生活できるよう(自立)」に必要な支援やサービスを提供する仕組みです。

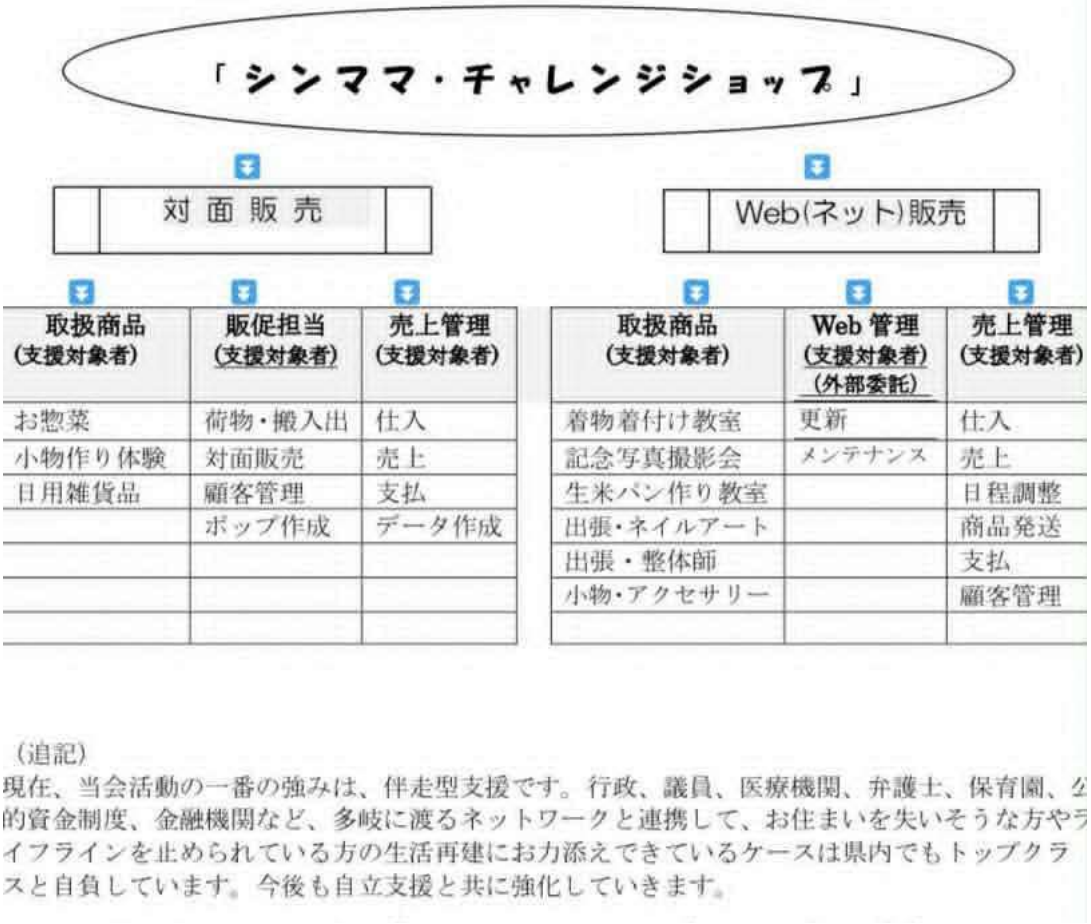
② 「助け合い支援士(仮称)」の養成講座開催

・元支援対象者だった人達を支援する側に養成することで相方向に大きな利点を図る。

・生活再建のお手伝いを望んでいる方に専門知識を会得してもらう勉強会の開催。

◆ 対面式 & Web 式 「シンママ・チャレンジショップ」の定義 ◆

障害や病気、生活困窮等によって日常生活や社会生活を送ることが困難な方々に対し、「自分の力で生活できるよう(自立)」に必要な支援やサービスを提供する仕組みです。



取扱商品 (支援対象者)	販促担当 (支援対象者)	売上管理 (支援対象者)
お惣菜	荷物・搬入出	仕入
小物作り体験	対面販売	売上
日用雑貨品	顧客管理	支払
	ポップ作成	データ作成

取扱商品 (支援対象者)	Web 管理 (支援対象者) (外部委託)	売上管理 (支援対象者)
着物着付け教室	更新	仕入
記念写真撮影会	メンテナンス	売上
生米パン作り教室		日程調整
出張・ネイルアート		商品発送
出張・整体師		支払
小物・アクセサリー		顧客管理

(追記)
現在、当会活動の一番の強みは、伴走型支援です。行政、議員、医療機関、弁護士、保育園、公的資金制度、金融機関など、多岐に渡るネットワークと連携して、お住まいを失いそうな方やライフラインを止められている方の生活再建にお力添えできているケースは県内でもトップクラスと自負しています。今後も自立支援と共に強化していきます。

連携団体

反貧困ネットワーク熊本、NPO 法人抱撲、グリーンコープ、LifeSupport 生活再生相談室、熊本県弁護士会、熊本県社会福祉士会、熊本県行政書士会、建築士会、有機農業関連団体、医師会、各地域の市議会議会、県議会議員、Lego 保育園(夜間保育園)さくらんぼ保育園、大光保育園、熊本市教職員組合、熊本県教職員組合、国際ソロプチミスト熊本、熊本経済、熊本キワニスクラブ、フェアトレードシティ熊本、NPO 法人チームふくしま、NPO 法人ひのくにスマイルプロジェクト、民医連、緊急支援ネットワーク、フードバンク熊本、子どもから地域に拡がれネットワーク(価値観を共有できる)、こども食堂仲間

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		HP・SNS 等

info@terakoya-kumamoto.org	090-8395-8300 担当者名：佐藤篤子 （通称：彩己子）	NPO 法人 寺子屋カフェくまもと ｜ シンママや子ども達の現在と未来に伴走支援する

釜ぐみ

活動を始めるきっかけ/活動概要

共働き家庭やひとり親家庭の増加に伴い、こどもたちが 1 人で食事をする「孤食」の問題が身近なものとなっています。また、保護者の帰宅を待たずに自分で食事を準備し、一人で食べるこどもも少なくありません。

実際に、こどもたちからは「今日は一人でご飯を食べるんだ」「お母さんが仕事の日はお弁当を買って食べるの」といった声を聞くことがあります。その一方で、保護者の方々も仕事や育児に追われ、「学童に持たせるお弁当作りが負担になっている」「一人の時間が全くない」「夜勤明けでも十分な睡眠時間を確保できない」など、多くの悩みを抱えています。

さらに、地域には食事に困難を抱えるこどもたちもいます。「遠足に行きたいけれど、お弁当を作ってもらえないから参加できない」「お腹が空いて、お菓子を盗んでしまった」といったこどもたちの現実に触れる機会もありました。

こうしたこどもたちや保護者が抱える課題を目の当たりにし、安心して食事をとれる居場所づくりと、保護者が少しでも心と体を休められる機会を提供したいとの思いから、この活動を始めました。

重点的に取り組んだこと/成果

1．こどもが安心して食事できる場づくり

・お金の事を考えず、だれかと楽しく食べられる場所を提供することを最優先に取り組みました。

・こどもたちが一人で食事する”孤食”の状態を少しでも減らし、温かい食卓を囲む体験を届けることができました。

2．食事に困難を抱えるこどもへの支援

・遠足に行けない、食事を準備してもらえない、空腹で万引きをしてしまうなど、深刻な状況にあるこどもたちに寄り添い、安心して食べられる環境を整えました。

・こどもたちが「ここなら大丈夫」と思える居場所作りに成功しました。

課題/解決に向けての取り組み

1．ボランティア・協力者の拡大

活動の趣旨を広く伝え、地域の大人が参加しやすい環境を整えることが課題です。

2．こどもが安心して来られる雰囲気づくり

・「誰でも来ていい」「理由はいらない」という空気を大切にし、こどもが気軽に利用できるように取り組んでいます。食事だけでなく、会話や遊びを通して心のケアにもつながる場を目指します。

今後の展開

こどもが安心して集まれる”居場所”としての機能強化

学習支援や遊びの時間、相談できる大人との交流など、こどもが心身ともに安心できる環境を整えていきます。

こどもたちの”声“を反映した活動作り

こどもたち自身の意見や希望を取り入れ、より楽しく、より利用しやすいこども食堂を目指します。食事メニューやイベント企画など、こどもが主体的にかかわれる仕組みをつくり、居場所としての魅力を高めていきます。

連携団体

熊本県子ども食堂ネットワーク

熊本県地域こども食堂支援センター TSUDOU・NET

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		HP・SNS 等
tamrara55@yahoo.co.jp	担当者名：釜崎	Instagram

長嶺みんなの食堂

活動を始めるきっかけ/活動概要

・町内会への住民要望として、こども食堂の開催を望む声が挙げられていた。
・食事に困難を抱えるこどもや、孤食となりがちな高齢者にとって、気軽に参加できる緩やかな会食の場は有用であると考えられる。
・こどのような場を通じて参加者同士の顔見知り関係が形成されることは、地域における見守りや相互扶助の関係づくりにつながるものであり、地域の安心・安全の向上に資する要素となることが期待される。

重点的に取り組んだこと/成果

・参加者の案手的な確保を図るため、毎月の回覧板や校区安全メール等を活用し、定期的に開催していること及び誰でも参加可能であることについて周知を行った。
・調理スタッフの安定的な確保は事業継続に不可欠であることから、継続的に広く協力の呼びかけを行っている。
・地域からの支援の確保は重要な課題であるため、農産物や不用品等の提供について協力を呼び掛けた結果、提供物資は徐々に増加している状況にある。

課題/解決に向けての取り組み

・地域食堂の認知度向上を図るため、こどもたちが作成したポスターを校区内の店舗等に掲示した。

・多世代交流の活性化を目的として、中学校のさわやか交流事業と連携し、生徒の参加を得た。

今後の展開

・安定した食事提供を確保しつつ、食前の時間帯には室内においてお絵描きや学習支援、配膳等の手伝い活動を実施し、食後には屋外でのスポーツやレクリエーション等を行うほか、季節感のある行事を取り入れた活動の充実を図っていく。

・こども、成人、高齢者等がともに参加する多世代交流の場として、にぎわいのある交流活動の展開を推進していく。

連携団体

・町内自治会、青少年育成協議会、社会福祉協議会、ながみね繁栄会、老人クラブ連合会

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		HP・SNS 等
ncb8ru@gmail.com	090-5930-9578 担当者名：坂口信春	長嶺みんなの食堂

縁側サロン竹ちゃんち

活動を始めるきっかけ/活動概要

13 年前に子育てサークルとしてスタートし、2016 年 5 月より子育て支援を主としたこども・地域食堂として間口を拡げ今年で 10 年になる。熊本地震 1 ヶ月後にスタートし子どもだけでなく親の子育てのサポートの必要性を感じた。また、地域の繋がりも薄れる今日にあたり、地域と繋がる集いの場としても、活動の幅を広げた。
2021 年 12 月に西区の賃貸家屋での 2 拠点目においては、高齢者支援や働くお母さん方の必要性も有り、1 日開ける中で夕方の惣菜支援は必要となった。高齢者の集まる場所が無いため開放した。

毎月第 1 、3、4　水曜日、土曜日のランチ会食　不定期に惣菜配布　フードパントリー
季節イベント　食育親子料理会の開催等

※2025 年 12 月末にて、賃貸家屋での活動は終了した。第 1 、3 水曜日、土曜日
南区自宅開放のみ第 4 水曜日、土曜日で開催継続中

重点的に取り組んだこと/成果

●子育て支援:平日の未就学児を持つ親のためのサロンでは、お母さん同士の交流も生まれ他県からの転入の方々の安心に繋がった。ママ同士で子育ての悩み等を共有し話すことで孤育ての解消になっていた。
●高齢者や働く親支援として、不定期ではあるが総菜や弁当の提供は大変喜ばれ、総菜等を取りに来る日は、他の皆さんとも会えると楽しみにしていた。働くお母さん方は、作らないでいい日が有ることでゆとりの時間ができ子供たちとゆっくり一緒にご飯が食べられたなどの感想を頂いた。
●食育活動においては、子どもが自分で作る体験を通じて食への興味や食べる事の大切さを学んだり、日頃ゆっくり子どもと関われない親たちも一緒に作る時間を楽しんだ親子のコミュニケーションがとれた事は良かった。

課題/解決に向けての取り組み

●自身の居住地で有る地域住民の利用が少なく、全校区からの利用が多い
　地域に特化した居場所の開放が必要と考えるため、新年度より開放を計画した。
●賃貸家屋の活動において、家賃や水道光熱費の負担は大きく４年間続けたが閉所とした。

今後の展開

南区自宅開放を拡充し、町の皆さんのための集いの場の活動を入れていきたい。
新年度４月より第１土曜日を地域食堂に特化してスタートする。
自治会や子ども会との連携を深め、共に活動ができ地域コミュニティの場を活性化したい。
子どもたちを真ん中に地域が繋がるイベントなども開催していく。
食育を含んだ活動を増やしていく。

連携団体

熊本県ひとり親家庭福祉協議会、一社)熊本県こども食堂ネットワーク、フードバンク熊本、南区福祉保健課、熊本市社会福祉協議会、校区社会福祉協議会自治協議会、老人会、こども会、小学校、中学校、PTA

問い合わせ

✉	📞	HP・SNS 等
merimero0412@gmail.com	090-5726-2504 担当者名：竹下紀子	【Facebook】 縁側サロン竹ちゃんち 【Instagram】 @NORIKO.TAKESHITA

桜木東食堂 陽だまり

活動を始めるきっかけ/活動概要

「桜木東食堂 陽だまり」は、桜木東校区社会福祉協議会が運営しているこども食堂です。

桜木東校区社会福祉協議会では、校区住民に具体的に社会福祉貢献できる活動について検討していた時期に、新聞などでこどもの孤立や貧困、ヤングケアラーの問題に加え、大人の孤立やひきこもりといった社会課題が長期間数多く取り上げられていました。

そのような中、「校区にこども食堂を 1 か所設置したい」という記事を目にしたことをきっかけに、小学校や行政機関へ調査を行ったところ、地域における需要があると考えられたため、桜木東校区社会福祉協議会が開設いたしました。

現在は、校区住民による地域貢献活動の一環として運営しており、毎月第 1 日曜日の 11 時 30 分～13 時まで、会食形式とテイクアウト形式を併用しながら、カレー弁当を提供しています。

また、地域の皆様が気軽に交流できるコミュニケーションの場づくりにも力を入れており、様々なイベントを開催しています。交流を通して、お互いの名前と顔を覚え、安心して心を開いてつながることのできる地域づくりを目指しています。

【イベント例】

・抽選会
・12 月はクリスマスバージョンでサンタさんとの撮影会
・映写会
・e スポーツ
・昔伝承遊び　等

重点的に取り組んだこと/成果

「食」を通して、子どもから大人まで地域の方々との「コミュニケーションの場づくり・集いの場づくり・相談の場づくり」の温かい居場所づくりを目指しています。

「食・イベント」の活動で、心を開いて交流できる環境づくりが出来そうです。

【来場者の声】

・「陽だまり」で、友達が出来てうれしいです！
・ひとり親家庭の方が来場して優しい声掛けに感謝です。心が和みます!!
・優しく、楽しそうな雰囲気ですね!!

課題/解決に向けての取り組み

こどもの孤立や孤食、ヤングケアラー、ひとり親家庭の困りごと、また大人の引きこもりや孤立といった課題は、表面化しにくく、その実態を把握することが難しい現状があります。そのため、「陽だまり」では、「食」と「イベント」を通じた多世代交流の場を継続的に提供し、参加者同士の信頼関係を育みながら、心を開いて相談や交流ができる環境づくりに取り組んでいます。今後も、こうした活動を通じて、地域課題や支援を必要とする方々の状況を

早期に把握し、必要な支援につなげていきたいと考えています。

今後の展開

桜木東食堂 陽だまりは「コミュニケーションの場づくり・集いの場づくり・相談の場づくり」を目指しています。

今後、自治体・各種団体・小中学校・幼稚園・保育園等に情報提供し、互いに助け合い、安全・安心して明るく笑顔あふれる桜木東校区になれば幸いです。

連携団体

桜木東校区社会福祉協議会が運営しています。

連携団体は、自治会・体協・まちづくり会・青少年健全協議会・防犯協会・民生児童委員会、桜木東地域コミュニティセンター・交通安全協会・桜木東小学校・子ども会

問い合わせ

		HP・SNS 等
	090－3883－1185 担当者名：福本 廣人	

令和７年度未来基金活動報告 写真

陽だまり横断幕

陽だまりの受付

調理スタッフ

調理中

カレー弁当（100 食限定）

弁当仕上げ

会食 美味しいです。

弁当検食

仲良し家族

抽選会準備 ok

読み聞かせ

仲良し友達待機中

サンタさんとの撮影会

陽だまりスタッフ

子どもが生きられる世界　ゆりりん食堂

活動を始めるきっかけ/活動概要

コロナ禍での親子の居場所づくりがきっかけ。2022 年 4 月～
★毎月第 4 火曜日の夕ご飯を 17 時～21 時まで開催
★7 月　夏まつり　（今年度は参加者 300 名突破！）
★8 月　江津湖水遊び　（夏休み応援企画で王将弁当配布）
★12 月　江津湖餅つき
★3 月　江津湖お花見親睦会（春休み応援企画で王将弁当配布）

重点的に取り組んだこと/成果

ゆりりん食堂がはじまって、4 年が経過しました。1 年目から継続して実施してきた様々なイベントが地域に定着し、『ゆりりん食堂の江津湖夏まつりは楽しい』という口コミがひろがり、今年度は 300 名を超える参加者を迎えることが出来ました。また、平日の夕食提供では、野菜を多く取り入れた和食中心のメニューを心がけ、こどもたちの健やかな成長を支える食の提供に努めました。今年度は、地域の小学生ボランティアも積極的に活動し、世代を超えた交流が生まれる活気あふれる居場所となっています。子どもの頃から地域や社会に貢献する意識を育む風土が形成されつつあることも、大きな成果の一つです。さらに、会場である東町地域コミュニティセンターからも、地域に根差した公益性の高い活動として評価をいただき、会場使用料を半額にしていただくなど、地域からの理解と支援も広がっています。

課題/解決に向けての取り組み

平日の夜開催ということもあり、ボランティア不足が継続的な課題となっています。夕方以降は、仕事が終わって駆け付けてくださる熱意あるボランティアの方々に支えられていますが、準備や運営の前半時間帯の人員確保には依然として苦慮しています。少人数でもなんとか運営出来ている状況が続いていることから、一部のスタッフに負担が集中していることは課題の一つです。一方で、現在活動に参加しているボランティアは、自らの意志で応募・参加してくださった方ばかりであり、その存在は運営にとって大きな支えとなっています。
今後は、この課題の解決に向けて、運営側がより主体的に行動し、活動の意義や魅力を積極的に発信するとともに、地域住民や関係機関への本気の声かけを行うことで、新たなボランティアの確保につなげていきたいと考えています。

今後の展開

来年度も、毎月 1 回の平日夕食会を継続開催し、地域住民が安心して集い、交流できる居場所づくりに取り組みます。「ゆりりん食堂」が、温かい食事と人とのつながりを通して、地域の皆様にとって身近で親しみやすい交流拠点となるよう運営を継続してまいります。あわせて、江津湖の夏祭りや餅つき大会、夏休み・春休みの江津湖イベントなどの季節行事も積極

的に実施し、多世代交流の促進や地域コミュニティの活性化につなげてまいります。

連携団体

東町地域コミュニティセンター
熊本県子ども食堂ネットワーク
熊本県フードバンク

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

✉	📞	HP・SNS 等
Yoshinoppi0323@gmail.com	080-5260－0323 担当者名：百合本佳乃	インスタグラム Yuririn0323

ゆりりん食堂活動の様子

江津湖夏まつりのおかしつりを楽しむ子どもたち

こども地域食堂まんまる

活動を始めるきっかけ/活動概要

●立ち上げ

２０２０年８月に以下の目的で立ち上げ、コロナの影響により１０月に実動開始。

１）こどもの居場所づくり（生活に困難を抱える支援を含む）

２）こどもと高齢者の孤食防止

３）地域の交流の機会を増やし互いの絆を強化していくことが主な目的。

●活動概要

月に一度の開催です。（第三土曜）

場所は中島校区地域コミュニティセンターにて。

基本的に中島校区の住民に対しての子ども食堂です。食材の準備の関係上、月始めに申し込み期間を設け、その後食材を発注し当日に提供する流れです。

●【食堂とお弁当】

・月に1度の開催で地域のコミュニティセンターにてみんなでご飯を食べます。顔の見える関係性がどんどん強くなりました。高齢者から赤ちゃんまで楽しい雰囲気でご飯を頂きます。

子連れのお母さんにもたまにはゆっくりご飯を食べて頂きたい配慮、一人で来られる高齢者とのコミュニケーション等、スタッフそれぞれが声をかけ、目配りしている。

・会場の広さに限界があり、前半と後半と予約制にしています。今年度は西陵ロータリー様、あじせんラーメン様にもご協力を頂き、開催をそれぞれ一度ずつ食の提供をお世話になりました。

・今年度から本格的に自力で会場まで来ることができない校区の独居の高齢者様に対して、町内の民生員さんを通じて弁当を配布している（事前のニーズ調査含め）

●【フードパントリー】

・定期的に賞味期限の短い食材をフードバンクさんから頂く。それらを一人くらしの高齢者さんへ民生委員さんを通じてお渡ししているほか、パントリー情報を発信するラインングループを作成し、情報を届け、希望者にお渡ししている。

・経済的に困窮している方の情報を役員の一部で共有し、それらの世帯にはフードパントリーとして食材の提供を定期的に支援している

●広報方法

・こどもを対象には中島小学校 PTA の連絡網を活用し、また各保育園にも広報している。

・高齢者へは各町内の民生委員さんが参加の有無、またお弁当のニーズを聞き取りされる。

●参加者

小学校の児童・その兄弟姉妹・保護者・75歳以上の独居高齢者はじめ、地域住民。

重点的に取り組んだこと/成果

●ボランティアスタッフメンバーも地域の有志や民生委員さん、大学生のボランティアさんなどと協力してくれる方が増えて、毎月12から16名ほど、スタッフがお手伝として参加してくれる。老若男女の活気ある居場所になっている。
●毎回、多くの新鮮食材の寄付を頂いている。食育の観点から栄養、好み、彩りも含め工夫をしながらメニューを考えている。
参加した子ども達も保護者も高齢者もおいしくてバランスのよい食事に喜んでいただいた。
●民生委員さんによる独協の高齢者に対するお弁当の配布のご協力にも大変助かっています。（見守りに繋がる点でも大変よいことだと感じている）

課題/解決に向けての取り組み

当日までの食材やメニュー準備、募集から受付の準備など、運営に関わる負担が一部に偏ってしまうことが避けられないが、可能な限り役割分担し、一部が疲弊しない工夫が必要。

今後の展開

こどもから高齢者の方の居場所になるよう引き続きボランティアスタッフや寄付提供者の理解のもと協力し合いコツコツ継続していく。

連携団体

熊本県こども食堂ネットワーク・フードバンク熊本・大海水産株式会社（魚の提供）
・オアシス九州様（肉の提供）・有限会社マルイシ青果（野菜の提供）・有限会社福島商店
・地域の農家さん等

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

✉	📞	HP・SNS 等
nakashimakodomo@gmail.com	090-8836-5858 担当者名：古川久仁子	

熊本市白山校区社会福祉協議会「白山こども食堂」

■ 活動を始めるきっかけ/活動概要

毎月１回（原則第３日曜日）白山地域コミュニティセンターにて、手作りの食事の提供を行う「白山こども食堂」の活動を行っている。「白山こども食堂」の活動を始める際に、白山校区の子どもたちを中心に地域の人が一緒に食事をすることによって、日曜日の保護者の食事の準備の軽減や、子どもたちにとって学校外の居場所として地域の拠り所とすることを目的とした。

■ 重点的に取り組んだこと/成果

可能な限りの食数を準備し、来ていただいた人全員に食事をとっていただくことができた。調理や運営もボランティアの方たちに協力いただいて、提供する食事についてはなるべく手作りを心がけた。小学校との連携もあり、毎回 100 名前後の参加者に来ていただけている。

■ 課題/解決に向けての取り組み

貧困の問題や家庭の孤立が進む昨今において、貧困家庭もそうでない家庭も区別することなく誰もが安心して食事を取れる場として、「こども食堂」活動を行い、地域住民やボランティアがお互い顔なじみになることによって、顔の見える地域交流の場としての機能を果たす。

■ 今後の展開

白山こども食堂の活動を通じて、子どもたちや地域の人たちの拠り所となれるよう安定した運営を心がけ、ボランティアの方たちや各種団体のボランティアの人たちと協働して、白山校区における持続可能な活動を行っていく。

■ 連携団体

白山校区自治協議会／白山地域コミュニティセンター／白山校区青少年健全育成協議会
交通安全協会白山支部／熊本市消防団第十一分団

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

		HP・SNS 等
なし	090-3017-5622 担当者名：会長　飯干哲哉	なし

Yell つながるカフェ

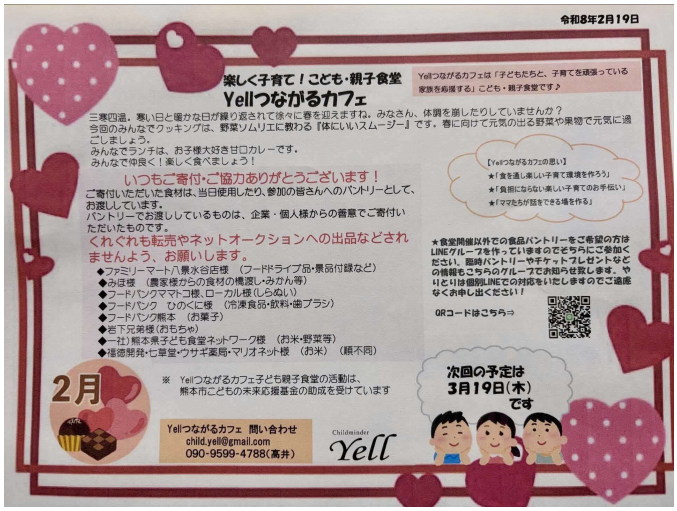
活動を始めるきっかけ/活動概要

子どもの健全育成のためには子育て中の親への支援が必要と考え、2012 年より子育てサロンやお預かりなどの子育て支援を開始しました。その一つとして、2017 年 9 月より食を通した支援・食育活動として主に就園前の親子を対象としたこども・親子食堂をほぼ毎月 1 回（年間 14 回）開催しています。

重点的に取り組んだこと/成果

親子でゆっくりと食事して過ごしたり、ママ友とおしゃべりしたり、こども同士のおともだち作りのため、子どもたちの製作体験や食育体験と会食を実施。1~3 歳児でもできることを取り入れた製作ワークショップやみんなで作る食育体験などを取り入れて開催しています。食事は離乳期でも食べられるように取り分けできる作り方など工夫しました。「家ではこまごまとしたものを準備できないし、アイデアが楽しいです」との声も聞かれ、親と子のふれあいの時間となっています。また、ママ友もできて育児の話で盛り上がっています。今年度は「手作りおやつ」「うちわや飾り作り」「おもちゃ作り（たこや風船のおもちゃなど)」を実施しました。

クリスマスのメニューは特別。ビュッフェ式で提供しました



課題/解決に向けての取り組み

告知方法はほぼ参加のママたちからの紹介と SNS を見てという方が多いのですが、市内の子育てサークルの参加者などにも声をかけてそちらからの参加も徐々に増えつつあります。引き続き子育てに関する機関へのチラシ配布なども検討してみようと思います。また、活動費は寄付の減少と物価高騰により厳しい状況には変わりなく、節約と寄付のお願いを続けて、現状維持に努めていきたいと思います。また、働くママの増加により参加者の年齢がより小さくなってきています。社会復帰されるママへの支援も必要かと考えています。

今後の展開

これまで同様の活動は継続実施しながら、参加者の意見を取り入れつつ、ママの社会復帰に向けて不安にならないような専門職とのつながりつくりや、気兼ねなく話ができる場づくりをしていこうと思います。

連携団体

一社）熊本県こども食堂ネットワーク、フードバンク熊本、フードバンクママトコ、フードバンクひのくに、孤独孤立支援ネットワーク、子ども食堂の仲間たち

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

✉	📞	HP・SNS 等
child.yell@gmail.com	090-9599-4788 （担当者氏名　髙井眞弓）	Yell（エール）	Facebook

認定 NPO 法人ポピンズくまもと

活動を始めるきっかけ/活動概要

2020 年 4 月、コロナ禍の休校中に、地域の保護者の方々からの不安の SOS に答える形で、お弁当配りからスタート。2021 年 6 月からは、Fu-Rin 堂の厨房を借りて、食堂形式に発展させ、「地域食堂ぽぴカフェ」の名前で活動している。現在は月に 1～2 回、平日や土曜に開催。公式 LINE からお友達登録をしてもらい、開催日等の情報を発信している。現在では主に2つの小学校区からこどもたちが参加しており、他5つの小学校区からの利用者もいる。また、屋外で実施しているため、通りかかった方々が関心を持ってくださり、地域の一人暮らしの老人も参加するようになるなど、地域食堂として、なくてはならない居場所になっていることを実感している。当初 30 食から始めたお弁当も、来場者が増え、短期間の間に、50食から 70 食を配布するまでに拡大した。こどもたちがゲームから離れて、集う場所があることを保護者も喜んでいる。さらには、保護者の悩み相談にも対応しており、必要によっては関係機関を紹介するなどしている。また、生活困窮者に対しての一時的な支援物資提供も行っている。県外からの急な転居で学用品や生活用品の調達が困難な場合などの相談にも応じている。

重点的に取り組んだこと/成果

地域の他機関との連携について重点的に取り組んだ。森都心プラザ図書館、高齢者支援センターささえええりあ花陵、熊本市障がい者相談支援センターすてっぷ、 KDS ネクストカレッジ@熊本駅前、熊本市社会福祉協議会西区事務所など、多くの支援者を得て、秋祭りを盛り上げることができた。また、地元の小学校では、PTA 主催のお祭りに今年も参加し、PR 活動を行ったが、その中で、支援物資の提供のご提案をいただくなど、支援くださる仲間を増やすことができた。また、これまでのように、地域の方々、コルディアーレ農園、ふくしま果樹園など、たくさんの方々が支援物資の提供を、今年度もしてくださった。

以上のことから、今年度の事業の目標は達成できたと考える。

課題/解決に向けての取り組み

毎年の課題は変わらず、資金の調達である。積極的に SNS などを活用し、活動をアピールし、企業はじめ市民の賛同を得られるよう、努力したい。

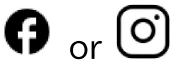
今後の展開

今後もアウトリーチに力を入れ、「地域で繋がる」支援を継続していきたい。

連携団体

森都心プラザ図書館、高齢者支援センターささええりあ花陵、熊本市障がい者相談支援センターすてっぷ、KDS ネクストカレッジ@熊本駅前、熊本市社会福祉協議会西区事務所

問い合わせ

		
pk.only.connect@gmail.com	070-5274-0762 （担当：藤山）	https://www.instagram.com/popi.cafe

令和７年度　地域食堂ぽぴカフェ　活動の様子

認定 NPO 法人ポピンズくまもと

一般社団法人こどもキッチンブルービー

活動を始めるきっかけ/活動概要

地域で目の当たりにした子どもたちの孤食や、農家の方から規格外野菜の有効活用について相談を受けた事がきっかけで「こども食堂」を開設しました。
開設日：２０１６年２月
活動概要：こども・地域食堂（毎月第 1・第 3 土曜日 11 時～14 時）
小学生の放課後の居場所（月曜日～金曜日 13 時～18 時）
ひとり親家庭支援・体験活動・その他

重点的に取り組んだこと/成果

令和 7 年度は、食事提供に加え、平日の居場所解放を強化し、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりに取り組みました。見守りや体験活動、家庭支援を組み合わせた多面的な支援により、子どもの社会性の向上や地域とのつながりが深まり「居場所」としての定着と支援の循環が進みました。
こども・地域食堂年間利用数　延べ人数２３４６名（こども１２０５名・大人１１４１名）
放課後の居場所年間利用数　　延べ人数１６２８名（開所日数２２１日）

課題/解決に向けての取り組み

課題として、運営の属人化や継続の担い手不足、日常的な居場所の安定があげられました。これに対し、関わりやすい仕組みづくりを進めるとともに、放課後の居場所に誰でも安心して来られる環境づくりに取り組みました。

今後の展開

今後は、地域やボランティアとの連携を深め、持続可能な運営体制の構築を目指します。

連携団体

グリーンコープ生活協同組合くまもと・一般社団法人熊本県こども食堂ネットワーク
西南ロータリークラブ・熊本農業高校・川尻小学校、城南中学校・川尻校区自治会　他

問い合わせ

kodomokitchenbluebee@gmail.com	０７０-５８１０-４５６８ 担当者名：松枝	https://aoihachi.com

100万人のクラシック クライブ

熊本 YMCA　ぷらっとほーむ

活動を始めるきっかけ/活動概要

コロナ禍で、不登校児童生徒が増加し、それが社会問題となった。こうした、社会問題に対して、大学生ボランティアが何かできることはないかと考え、不登校の子どもたちが安心でき、より自分自身を好きになれる場所を作ろうということで、ぷらっとほーむを作った。ぷらっとほーむの活動は、平日月曜日～金曜日 10 時～19 時であり、大学生を中心としたボランティアでぷらっとほーむを含めた子どもたちによりおいしい夕食を提供したいといことで始まった。

重点的に取り組んだこと/成果

重点的に取り組んだこととして、食事を通して、子どもたちの繋がりを広げたり、強めたりすることだ。そのために、年間を通じて継続的に食事の提供を行った。普段の活動では、個人や特定の人との関わることが多かったため、食事の際に、参加者全員が食卓を囲むようにした。それによって、今まで関わりが薄い子どもが会話の中で共通点を見つけることができ、食事以外でも一緒にいる時間が増えた。また、よく子どもたちが率先して調理を手伝うこともあり、調理できることで子どもの自信にもつながる機会もあった。

課題/解決に向けての取り組み

今回の課題として、ぷらっとほーむ以外の外部の方や地域の子どもたちをより多く巻き込むことだ。地域の方や子どもたちに提供する機会は、少ないため、よりぷらっとほーむの子どもが社会とつながるためにも、地域に呼びかけを行い、より規模を大きくし、多くの子どもたちの温かい時間を作っていきたい。また、そうするために、広報活動やイベントなどを行っていく。今では、Instagram を開設しているため、それを利用して呼びかけを行ったり、地域のお祭りに出店し、私たちの活動を知ってもらえるようにしていく。

今後の展開

今後も、継続的に活動を進めていくほか、より多くの子どもたちに栄養ある食事を届けるために、フードバンクや寄付を行っていきたい。また、YMCA 内の団体や他団体と協力しながら、より多くの子どもに食事提供をできるようにしていきたい。

連携団体

・熊本 YMCA　八代ワイズメンズクラブ
・熊本 YMCA　N スピリットクラブ

問い合わせ（未記載の項目があっても構いません）

✉	📞	HP・SNS 等
Plat_home@kumamoto-ymca.org	096-382-6661 担当者名：	

※活動の様子

団体名	株式会社　千広	元気だモン食堂
活動を始めるきっかけ/活動概要	実施回数：4回　参加人数：160名（こども120名・大人40名） 実施場所である慶徳校区は、熊本市内でも若い世代の多い地域であり、新築マンションも多く共働き世帯の家庭が多い地域である。そのような世帯やこどもを主な対象とし、校区内での交流促進やこどもの孤食や孤立を防ぐことを主な目的とする。それとともに、生活に困難を抱えるこどもの支援も目的とする。 校区内での交流促進やこども達の孤食や孤立防止のために、食育の観点に配慮した栄養バランスの取れた食事を提供する。	実施回数：24回　参加人数：702名（こども383名・大人319名） 地域の子どもたちが安心して食事をとり、多世代が気軽に交流できる居場所づくりと西山中学校区地域の活性化を目的として活動を開始した。教会施設を会場に、月2回程度、手作りの食事提供を中心としたこども食堂を開催している。ルーテル学院大学の学生さんが遊び相手になってくれたり、子どもから高齢者まで幅広い世代が参加できる交流の場として活動を継続している。また、企業・団体から提供いただいた食材や物資を活用した食育・生活支援にも取り組んでいる。
重点的に取り組んだこと/成果	イベントと同時にこども食堂を実施したので、こども達の参加者は多かった。また、保護者も積極的に参加して頂いた。 こども食堂を通じて、日頃会わないこども達同士の交流やこどもと地域住民の交流を図ることができた。	広報については、近隣小学校2校へのチラシ配布や庁内掲示板への掲示を行い、地域への周知に努めた。その結果、口コミによる参加者の増加につながり、当初の対象学区以外からの参加も見られるようになった。偏食傾向のある子どもが食事を完食したり、おかわりをする姿も見られ、保護者から喜びの声が寄せられた。さらに、大学生ボランティアの継続的な参加により、子どもたちの遊び相手や相談相手としての関わりが生まれ、食事以外の交流機会の充実にもつながった。
今後の課題・展開	令和６年４月に実行委員会を立ち上げたのちに、年間４回のこども食堂実施に向けて活動を行っていく。	参加者の増加に伴い、乳幼児から中学生まで幅広い年齢層への対応や、より円滑な運営体制の確保が課題となっている。また、継続的な活動のためには、調理・見守り・遊び支援等を担うボランティアの確保と育成が必要である。 今後は、地域住民や関係機関とのつながりをさらに深めながら、誰もが気軽に参加できる居場所づくりを継続するとともに、食育や健康づくりに関するプログラムの充実を図り、地域全体で子どもの成長を支える活動へ発展させていきたい。
連携団体	慶徳コミュニティセンター、慶徳小学校	ルーテル学院大学（学生ボランティア派遣）、ゼスプリ（キウイフルーツ提供・食育支援）、吉野家高平店（牛丼提供）、ライオン株式会社（歯ブラシセット提供・口腔衛生啓発）、熊本市社会福祉協議会（餅の提供）、地域農家（わら飾りの提供）、近隣小学校（広報協力）、地域ボランティア・地域住民

団体名	ちいきしょくどう	地域食堂シュワ―ズ
活動を始めるきっかけ/活動概要	実施回数：13回　参加人数：714名（こども320名・大人394名） 地域のこどもたちが安心して過ごせる居場所づくりと、高齢者との交流機会の創出を目的として活動を開始した。毎月開催する学びの勉強会の後に、多世代が一緒に食事を楽しむ交流の場を設けており、こどもの学習支援や孤食の防止、地域とのつながりづくりに取り組んでいる。	実施回数：27回　参加人数：232名（こども208名・大人24名） 孤食や貧困の防止、食育の推進、地域における居場所づくりを目的として活動を開始した。中高生を中心とした地域住民が気軽に集える地域食堂を定期的に開催するとともに、ミニ手話レッスンや料理教室、食育教室などを実施し、交流や学びの機会を提供している。
重点的に取り組んだこと/成果	こどもと高齢者が自然に交流できる環境づくりを重点的に行った。学びの勉強会や会食を通じて世代を超えたコミュニケーションが生まれ、参加者同士の顔の見える関係づくりにつながっている。また、みんなで食卓を囲むことで食への関心が高まり、苦手な食べ物にも挑戦するなど、こどもたちの食育にも良い効果が見られている。	食事の提供にとどまらず、参加者一人ひとりとの対話を大切にし、生活や経済的な悩みなどの相談支援に取り組んだ。その結果、これまでに10件以上の相談に対応し、継続的な見守りや支援につなげることができた。また、知的障がいのある方を含め、多様な人々が安心して集える居場所としての役割を果たし、地域のつながりづくりに貢献している。
今後の課題・展開	より多くの地域住民が参加できる活動となるよう、地域の様々な団体との連携を強化していく。また、バルーンアートやエコクラフトなどの体験型プログラムを取り入れながら活動内容の充実を図り、多世代交流の機会をさらに拡大していきたい。あわせて、地域コミュニティの活性化につながる継続的な活動を目指す。	参加者同士の交流を深められる温かい雰囲気を維持しながら、継続的な活動を行うことが課題である。今後も一人ひとりとの関わりを大切にし、障がいの有無や年齢を問わず誰もが気軽に集うことのできる地域の交流拠点として活動を継続していく。また、食育や健康づくり等のプログラムの充実を図り、地域コミュニティのさらなる活性化につなげていきたい。
連携団体	日吉東小学校、地域老人会、済生会病院レストラン	地域住民及びボランティア協力者

団体名	特定非営利活動法人　絆	ゆげの森食堂
活動を始めるきっかけ/活動概要	実施回数：35回　参加人数：792名（こども432名・大人360名） 困窮家庭のこどもへの支援に加え、こどもから高齢者まで幅広い世代が交流できる地域の居場所づくりを目的として活動を開始した。参加条件を設けず、誰もが気軽に参加できるこども食堂を運営するとともに、食事の提供だけでなく、運動活動や学習支援、体験活動を通じて、こどもたちの学びや成長を支える取組を実施している。	実施回数：13回　参加人数：456名 ひとり親世帯や共働き世帯の増加に伴い、地域で気軽に集い交流できる場の必要性を感じたことから活動を開始した。食事提供や食料品配布を行うとともに、小物づくりなどの体験活動を通じて、こどもと保護者が安心して過ごせる居場所づくりに取り組んでいる。
重点的に取り組んだこと/成果	食事提供に加え、サッカーやボルダリングなどの運動活動を継続的に実施し、多世代が交流できる環境づくりに取り組んだ。その結果、活動への参加者が増加するとともに、こども食堂開催日以外にもグラウンドを訪れる子どもが増えるなど、日常的に地域とつながる場として定着してきている。	定期的なパントリー活動や食事提供を継続して実施し、参加者の生活支援に努めた。また、小学校や庁内会へのチラシ配布、市民センターホームページでの周知を通じて活動の認知向上を図った。その結果、継続的な参加につながり、参加者との信頼関係の構築や見守りの機会の確保につながった。
今後の課題・展開	土曜日開催については、習い事等との重複により参加が難しいとの声が寄せられていることから、より多くのこどもたちが利用できる環境づくりが課題となっている。今後は開催日を見直し、家庭や学校以外の「第三の居場所」として、こどもたちが安心して過ごせる場の充実を図るとともに、継続的な参加につながる運営体制を整えていきたい。	食事や物品配布にとどまらず、地域住民とこどもたちが交流できる機会の充実を図る必要がある。今後は、季節行事に合わせた体験活動や長期休暇中の学習支援などを実施し、多様な世代がつながる居場所として活動内容の充実を目指していく。
連携団体	地域住民、ボランティア	龍田市民センター、地域住民、関係団体

団体名	むさし子ども食堂	力合西校区社会福祉協議会力西こども食堂
活動を始めるきっかけ/活動概要	実施回数：12回　参加人数：307名（こども82名・大人225名） 高齢化が進む一方で、核家族化や共働き世帯の増加がみられる地域において、世代を問わず誰もが安心して集える居場所づくりを目的として活動を開始した。毎月第4土曜日にこども食堂を開催し、栄養バランスの取れた温かい食事を安価で提供するとともに、多世代が自然に交流できる地域の拠点づくりに取り組んでいる。	実施回数：14回　参加人数：1212名（こども1137名・大人75名） 地域のこどもたちの孤食や孤立を防ぎ、安心して過ごせる居場所を提供したいとの思いから活動を開始した。毎月第2土曜日にこども食堂を開催し、栄養バランスに配慮した食事の提供を行うとともに、多世代の地域住民やボランティアが交流できる場づくりに取り組んでいる。また、夏休み期間には学童を対象とした昼食提供や、餅つき・流しそうめんなどの交流イベントも実施している。
重点的に取り組んだこと/成果	参加者一人ひとりに寄り添える小規模な運営を生かし、手作りの食事提供や居心地の良い交流の場づくりに重点的に取り組んだ。その結果、子育て世帯や高齢者、高校生など幅広い世代が継続的に参加するようになり、多世代交流の場として地域に定着してきている。また、地域や企業からの食材提供が増えるなど、活動への理解と協力の輪が広がっている。	食事提供だけでなく、こどもたちが安心して過ごせる居場所づくりに重点的に取り組んだ。会食前にはeスポーツやシャボン玉、縄跳びなどを通じてこども同士の交流が生まれ、地域のボランティアとのつながりも深まっている。また、会場準備を手伝うこどもや、感謝の言葉を伝えるこどもが増えるなど、主体性や社会性の向上が見られた。さらに、活動を通じて地域におけるこども食堂のニーズの高さを確認することができた。
今後の課題・展開	安定した定期開催を継続しながら、参加者の声を踏まえた活動の充実を図ることが課題である。今後は、お菓子作り教室やスマホ教室など、地域ニーズに応じた取組を継続するとともに、こども食堂開催日以外も気軽に立ち寄れる交流の機会を設け、地域に根差した居場所づくりを進めていく。	利用者の増加に伴い、より多くの地域住民が参加できるよう、食数の拡充や運営体制の強化が課題となっている。今後はボランティアの確保・育成を進めるとともに、活動規模の拡大を図り、こどもだけでなく高齢者を含む幅広い世代が交流できる地域の居場所づくりを推進していきたい。
連携団体	地域住民、ボランティア、地元企業、武蔵コミュニティセンター等	小学校、自治会、自治協議会、民生委員児童委員協議会、地域ボランティア団体　等

団体名	NPO法人くまもと相談所	慶徳こども食堂実行委員会
活動を始めるきっかけ/活動概要	実施回数：4回　参加人数：145名（こども140名・大人5名） 虐待やネグレクト、保護者の病気、生活困窮など、さまざまな事情を抱えるこどもたちが安心して過ごせる居場所づくりを目的として活動を開始した。食事の提供やプレゼント配布等を通じて、地域の大人や他者とのつながりを感じられる機会を創出し、こどもたちの健やかな成長を支援している。	実施回数：4回　参加人数：160名（こども120名・大人40名） 慶徳校区は若い世代や子育て世帯が多い地域であることから、こどもや保護者が気軽に集い、交流できる場を創出することを目的として活動を実施している。地域住民や関係団体と連携しながら、食事の提供に加え、地域の特色や伝統文化を生かした体験活動を組み合わせたこども食堂を開催している。
重点的に取り組んだこと/成果	地域企業や関係団体との連携によるこども食堂の開催に加え、クリスマスプレゼントの配布やマルシェの実施など、多様な交流の場づくりに取り組んだ。また、障害福祉サービス事業所と連携した活動を開始し、地域住民や障がいのある方々との交流機会を創出したことで、地域全体でこどもを見守り支える環境づくりにつながった。	和菓子づくり、自然体験、餅つき、花の寄せ植えなど、食事提供と体験活動を組み合わせた企画を実施し、こどもたちの学びや交流の機会の充実に努めた。また、保護者や地域住民が継続的に参加することで世代間交流が促進され、地域全体でこどもたちを見守る環境づくりにつながった。
今後の課題・展開	こども食堂の開催に関心を持つ地域の団体等と協力し、開催機会の拡充を図るとともに、こどもたちが日常的に利用できる居場所づくりを進めていきたい。また、空き家等の地域資源の活用や障害福祉サービス事業所との連携を深め、食事提供だけでなく、継続的な見守りや交流の場としての機能強化を目指す。	引き続き年間4回のこども食堂を継続開催し、より多くのこどもや保護者が参加しやすい環境づくりを進めていく。また、地域団体や学校との連携をさらに深め、地域交流やこどもの居場所づくりの充実を図るとともに、支援を必要とする家庭への見守り機能の強化にも取り組んでいく。
連携団体	肥後銀行、TSUDOU・NET、株式会社TANAKA（障害福祉サービス事業所）、イオン株式会社、その他県内で活動するこども食堂団体等	慶徳小学校PTA、慶徳地域コミュニティセンター、和菓子処友達屋、白川カヌー関係団体、碧松園、慶徳校区の地域住民・ボランティア団体等

団体名	特定非営利活動法人おーさぁ	月出まんぷく食堂運営委員会
活動を始めるきっかけ/活動概要	実施回数：10回　参加人数：473名（こども172名・大人301名） 県営住宅健軍団地周辺には、子育て世帯や高齢者世帯が多く居住しており、地域内での交流機会の創出や孤立防止が課題となっていた。このような状況を踏まえ、地域住民が気軽に集い、多世代が交流できる場としてこども食堂を開始した。こどもから高齢者まで幅広い世代を対象に、食事の提供や交流活動を通じて、地域のつながりを深める取組を行っている。	実施回数：22回　参加人数：349名（こども272名・大人77名） 月出小学校校区において、生活に困難を抱える世帯を含む地域のこどもたちが、安心して朝食をとることができる環境づくりの必要性を感じたことをきっかけに活動を開始した。地域のこどもたちの健やかな成長を支えるとともに、食を通じた交流の場を提供することを目的に、学校登校日や長期休業期間に朝食提供を実施している。
重点的に取り組んだこと/成果	参加者が継続して足を運びやすい環境づくりに努めるとともに、地域住民や関係者への周知を積極的に行い、参加者の拡大を図った。その結果、こどもや高齢者が安心して過ごせる居場所として定着し、多世代交流の促進につながった。また、ボランティアとして参加した若者が地域活動に関わる機会となり、社会参加や社会性の向上にも寄与した。さらに、参加者からの相談をきっかけに福祉サービス等の支援につながるケースもあり、地域の見守り機能の一端を担うことができた。	朝食を欠食しがちなこどもたちへの継続的な食事支援に重点を置き、年間を通じて定期的に朝食提供を行った。また、食事提供だけでなく、学生ボランティアが主体的に活動へ関わる機会を設け、人材育成にも取り組んだ。その結果、こどもたちが安心して利用できる場として定着し、規則正しい食習慣の形成や地域における見守り機能の向上につながった。
今後の課題・展開	活動の継続・充実を図るため、より多くの地域住民に参加してもらえるよう周知方法を工夫するとともに、参加者ニーズに応じた企画を検討していく必要がある。今後は、食事提供や交流活動に加え、栄養バランスや地産地消、食料生産に関する情報発信など、食育の視点を取り入れた取組を充実させ、こどもたちの健やかな成長を支援していきたい。	学校給食のない長期休業期間における食事支援の充実が課題となっている。今後は、夏休みや冬休み期間中の支援方法について検討を進めるとともに、支援を必要とする世帯への宅食事業の実施も視野に入れている。また、事業拡充に向けては、継続的な財源確保や支援体制の強化が必要である。
連携団体	地域子ども会、民生委員・児童委員、若者サポートステーション、地域自治会等の地域関係団体、社会福祉関係機関（相談支援機関等）	月出小学校、学生ボランティア団体、地域住民・地域ボランティア、SNS等による広報協力団体・関係者、食事支援活動に協力する関係機関・団体

団体名	フードリボンINどんぐりの森	一新コドモ食堂
活動を始めるきっかけ/活動概要	実施回数：74回　参加人数：506名（こども428名・大人78名） 子どもの貧困問題への支援を目的として、「一人でも多くの子どもがおなかいっぱい食事を食べられる環境をつくりたい」という思いから活動を開始しました。城南地域を中心に、困窮家庭や地域の子どもたちを対象として、お弁当や食材の提供を行うとともに、季節ごとの体験型イベントを通じて、子どもたちや保護者が安心して集える居場所づくりに取り組んでいます。	実施回数：13回　参加人数：637名（こども618名・大人19名） 一新校区では、近年の人口増加に伴い地域住民同士のつながりや世代間交流が希薄化していることから、子どもたちの孤食や孤立を防ぎ、誰もが気軽に集える地域の居場所をつくることを目的に活動を開始しました。現在は、地域の子どもたちを中心に月1回の食事提供を行い、子どもから高齢者までが交流できる場づくりに取り組んでいます。
重点的に取り組んだこと/成果	今年度は、食事支援に加え、子どもたちの体験機会の充実と地域交流の促進に重点的に取り組みました。かき氷大会やクリスマスケーキの飾り付け体験、バレンタインイベントなどを開催し、子どもたちが楽しみながら食に親しむ機会を提供しました。また、高校生となった元参加者がボランティアとして参加し、三味線を披露するなど、支援を受ける立場から地域を支える立場へ成長する姿も見られました。さらに、広報活動の充実により、ホームページや公式LINEを通じた予約・相談につながり、活動の周知拡大にも成果が見られました。	今年度は、地域への周知拡大と継続的な参加につながる環境づくりに重点的に取り組みました。小学校や地域団体を通じた広報活動により活動の認知度が向上し、校区内外から多くの参加が見られるようになりました。また、卒業を迎える児童を対象とした交流イベントには100名を超える参加があり、子どもたちの思い出づくりや交流促進につながりました。さらに、青少年育成協議会からの寄附や民生委員によるボランティア参加など、地域団体との協力体制も深まり、地域に支えられる活動として定着しつつあります。
今後の課題・展開	現在は予約制によるお弁当配布が中心となっているため、今後は誰もが気軽に立ち寄れる食事提供の場づくりが課題となっています。また、食材提供に対するニーズの高まりを踏まえ、フードパントリー機能の充実を図るとともに、地域住民との交流や学習支援の機会を拡充していく予定です。放課後の時間帯を活用した居場所づくりを進め、子どもたちが家庭や学校以外にも安心して過ごせる地域の拠点となることを目指します。	活動を長期的かつ安定的に継続していくため、運営スタッフの負担に配慮しながら、参加者が安心して利用できる環境づくりを進めていく必要があります。今後は、校区内の子どもや保護者へのさらなる周知を図るとともに、地域福祉事業所との連携を視野に入れながら、障がいのある子どもやその家族が相談できる場やコミュニティづくりにも取り組んでいく予定です。
連携団体	こども食堂「きずな」、まんまる食堂、地域の支援団体・協力事業者、ホームページ及び公式LINEを通じてつながった地域住民・支援者	一新校区青少年育成協議会、民生委員・児童委員、一新校区内の小学校、地域福祉関係団体、地域ボランティア団体・住民組織（各種地域団体）

団体名	社会福祉法人南苑会ふじとみふれあい食堂	きずな
活動を始めるきっかけ/活動概要	実施回数：12回　参加人数：457名（こども273名・大人184名） 独居高齢者やひとり親世帯、孤食となりがちな子どもたちが安心して食事をとり、地域住民同士が交流できる場をつくることを目的として活動を開始しました。毎月第2土曜日に食堂を開催し、子どもから高齢者まで幅広い世代が集い、食事を通じてつながりを深められる地域の居場所づくりに取り組んでいます。	実施回数：34回　参加人数：768名（こども488名・大人280名） 隈庄校区において、核家族化や共働き世帯、ひとり親家庭の増加により、地域とのつながりが希薄化していることを背景に、子どもから高齢者までが気軽に集い、交流できる場をつくることを目的として活動を開始しました。現在は、月3回程度のこども食堂の開催を中心に、食事の提供や季節ごとのイベントを実施し、地域住民の交流促進と居場所づくりに取り組んでいます。
重点的に取り組んだこと/成果	利用者が継続して参加しやすいよう、年間の日程やメニューを事前に周知し、計画的に参加できる環境づくりに努めました。また、自治会回覧や利用者からの口コミを通じて活動の認知が広がり、新たな参加者の増加につながりました。さらに、誕生日のお祝いケーキや季節行事を取り入れることで、世代を超えた交流の機会が生まれ、参加者同士のつながりづくりに寄与しました。	今年度は、食事提供に加えて、参加者が楽しみながら交流できる環境づくりに力を入れました。ラーメンやかき氷の提供のほか、クリスマスやバレンタインなど季節に応じたイベントを実施し、地域住民が継続的に参加できる機会を創出しました。また、ひとり親家庭への支援や子育て・生活に関する相談、不登校や学習に困難を抱える児童への支援につながるなど、食事提供の場を超えた地域福祉の拠点としての役割を果たすことができました。
今後の課題・展開	より多くの地域住民に活動を知っていただき、継続的な参加につなげていくことが課題です。今後も誕生日のお祝い企画や季節ごとのイベントを継続しながら、参加者同士の交流を深め、誰もが気軽に立ち寄れる地域の居場所として活動の充実を図っていきます。	今後は、地域住民や関係団体との連携をさらに深め、支援を必要とする家庭や子どもたちがより早い段階で相談できる体制づくりを進めていくことが課題です。また、利用者とのコミュニケーションを通じて一人ひとりの困りごとを把握し、必要な支援機関につなぐなど、地域に根差した見守り活動や相談支援の充実を図っていきます。
連携団体	自治会、地域住民団体、児童養護施設、地域ボランティア、食堂運営協力者・支援者	隈庄校区自治会・地域住民団体、地域コミュニティセンター、民生委員・児童委員、地域ボランティア、福祉関係機関・相談支援機関、コミセン祭り・写経祭り関係団体

団体名	NPO法人老いと病いの文化研究所われもこう	一般社団法人 熊本私学教育支援事業団
活動を始めるきっかけ/活動概要	実施回数：12回　参加人数：69名（こども19名・大人72名） 熊本地震や新型コロナウイルス感染症の影響を通じて、地域住民同士のつながりの重要性を改めて認識し、地域で安心して相談や交流ができる場を提供するため活動を開始しました。現在は、地域食堂の運営をはじめ、食材配布や生活・健康相談などを行い、子育て世帯や生活困窮者、高齢者が孤立することなく地域の中で安心して暮らせる環境づくりに取り組んでいます。	実施回数：44回　参加人数：987名（こども776名・大人211名） 大江校区では、子どもの孤食や生活困窮世帯への支援、高齢者の孤立など、地域が抱えるさまざまな課題への対応が求められていました。当団体は、学習支援をはじめとする子ども・家庭支援活動を行う中で、食を通じた居場所づくりの必要性を感じ、こども食堂を開始しました。現在は、地域の子どもたちを中心に、誰でも気軽に参加できる交流の場として定期的に開催しています。
重点的に取り組んだこと/成果	今年度は、食事支援と健康づくりを組み合わせた取組に重点を置きました。限られた予算の中でも、栄養バランスに配慮した食事や季節の食材を活用したメニューを提供し、利用者の健康増進に努めました。また、地域住民が新たにボランティアとして参加するようになり、運営体制の充実につながりました。さらに、食育や感染症予防に関する資料を作成するとともに、子どもから高齢者まで幅広い世代が交流できる場となり、地域コミュニティの活性化にも寄与しました。	今年度は、従事者の減少に伴い運営体制を見直し、宅配型から会場開催を中心とした運営へ移行しました。また、より多くの方が利用できるよう開催回数を増やし、年間44回のこども食堂を実施しました。運営方法の変更や物価高騰への対応など様々な課題があったものの、継続的な食事提供の場を確保し、地域の子どもたちや家庭が安心して集える居場所づくりにつなげることができました。
今後の課題・展開	会場の規模や運営体制の都合から受入人数に限りがあるため、限られた環境の中でも継続的かつ効果的な支援を行うことが課題です。今後は、食育活動の充実を図るとともに、学生や若い世代の参加を促進し、世代を超えた交流の機会をさらに拡大していきたいと考えています。また、地域住民の健康や生活に関する相談支援機能についても充実を図っていく予定です。	活動を安定的に継続するためには、運営を担う人材やボランティアの確保が課題となっています。今後は、こども食堂をきっかけとして子どもや保護者とのつながりを深め、学習支援や各種イベントへの参加促進を図るとともに、困りごとを抱える家庭の早期把握や継続的な支援につなげていきたいと考えています。
連携団体	NPO法人（運営母体）、ホームホスピス関係施設、暮らしの保健室まる、地域ボランティア、フードバンク・食材提供協力団体、医療・保健・福祉関係者（看護師、保健師等）、地域住民組織・自治会等	熊本学習支援センター、地域ボランティア、大江校区関係団体、食材寄付・支援協力団体、地域住民・参加者家族
団体名	一般社団法人 子育てネットワーク縁側moyai	はぐくみ食堂帯山
活動を始めるきっかけ/活動概要	実施回数：23回　参加人数：402名（こども206名・大人196名） 熊本都市圏では、転勤や核家族化などにより、子育て世帯が地域とのつながりを持ちにくく、子育てに関する不安や悩みを一人で抱え込んでしまうケースが少なくありません。そこで、子育て世帯が気軽に集い、交流や情報交換ができる居場所づくりを目的として活動を開始しました。現在は、予約不要で参加できる食事交流会「きてきて♪ごはん」や定期的な交流会を開催し、子育て世帯同士や地域住民とのつながりづくりを支援しています。	実施回数：29回　参加人数：745名（こども328名・大人417名） 子育て世帯やひとり親世帯をはじめ、地域で生活するさまざまな世代が気軽に集い、支え合える場をつくることを目的として活動を開始しました。現在は毎週土曜日にこども食堂を開催し、食事の提供に加えてフードパントリーを実施するなど、地域の居場所づくりと生活支援に取り組んでいます。また、子どもたちの健全育成を目的として、学習支援や体験活動の機会も提供しています。
重点的に取り組んだこと/成果	今年度は、子育て世帯の孤立防止と交流促進に重点的に取り組みました。手作りランチの提供を通じて参加者同士が自然に交流できる機会を創出するとともに、子育てに関する情報交換や悩みの共有ができる環境づくりを進めました。また、SNSやホームページ等を活用した積極的な情報発信により、転入世帯や地域とのつながりが少ない家庭にも活動を知ってもらうことができ、参加者同士のネットワーク形成や地域とのつながりづくりに寄与しました。	今年度は、地域や学校との連携強化に重点的に取り組みました。大江地区で活動していた利用者やボランティアの受け入れを継続しながら、帯山小学校との協働によるこども食堂の周知や理解促進を図りました。また、児童によるボランティア参加や会食体験の機会を設けることで、地域活動への参画意識の醸成につながりました。さらに、継続的な食事支援や季節行事の開催を通じて、多世代交流の場として地域に定着しつつあります。
今後の課題・展開	子育て世帯のニーズは、子どもの成長や家庭環境の変化に伴い常に変化していくため、多様なライフステージに応じた継続的な支援が求められています。今後は、子育て支援に関する情報提供機能をさらに充実させるとともに、「縁側moyai」のネットワークを広く周知し、より多くの子育て世帯が地域や支援者とつながることができる環境づくりを進めていきます。	今後は、食事提供だけでなく、参加者同士の交流や地域コミュニティの活性化につながる取組をさらに充実させていく必要があります。また、防災分野との連携を深め、「こども食堂」を地域の支え合いの拠点として活用できる体制づくりを進めていきます。あわせて、近隣地域からの相談や要望に応じて、こども食堂の立ち上げ支援や運営ノウハウの共有にも取り組んでいく予定です。
連携団体	縁側moyai 子育て支援関係団体、地域の関係施設・交流拠点、SNS・広報協力団体、地域住民及び子育て支援協力者	帯山小学校、帯山校区防災連絡協議会、熊本市子育て応援団、地域自治会、地域ボランティア団体、フードパントリー協力団体・食材提供事業者、地域住民・保護者グループ

団体名	はじっこがない食堂	陽だまりの樹
活動を始めるきっかけ/活動概要	実施回数：12回　参加人数：288名（こども232名・大人56名） 貧困や孤食問題の解決、居場所づくりを目的としている。月に1回、第３日曜日にこども食堂を開催し、昼食を提供している。ワークショップを開催したり、地域の図書館と連携して読み聞かせなども行っている。	実施回数：26回　参加人数：1,358名（こども1,015名・大人373名） 地域における孤食の解消や居場所づくり、子育て世帯への支援を目的として活動を開始した。尾ノ上校区を中心に、こども食堂の開催や食材配布、学習支援、居場所の運営などを実施し、こどもから高齢者まで幅広い世代が安心して集える地域づくりに取り組んでいる。
重点的に取り組んだこと/成果	今年度は、保護者から寄せられた意見を活動内容に反映し、外遊びや季節・伝統行事に関する体験活動を実施するなど、利用者のニーズに応じた企画を展開しました。SNSによる情報発信も継続し、地域における認知度向上と参加者の拡大につながりました。	ひとり親家庭や生活に困難を抱える世帯への継続的な支援に重点的に取り組んだ。活動拠点の整備により、食材配布や相談対応を定期的に実施できるようになり、支援対象世帯との信頼関係の構築につながった。また、学校や関係機関からの紹介による相談や支援依頼も増え、地域における支援ネットワークの充実を図ることができた。
今後の課題・展開	今後は、子どもたち一人ひとりの個性や強みを伸ばすことができる活動をさらに充実させていく必要があります。「どんな人も自分が特別だと気付いてほしい」という理念のもと、創作活動や体験型イベントなどを通じて、子どもたちが自己肯定感を高め、自分らしさを発見できる機会を増やしていく予定です。また、地域住民との交流をさらに深め、誰もが気軽に参加できる居場所づくりを継続していきます。	拠点機能をさらに充実させるため、調理設備や備品の整備を進めるとともに、学習支援や居場所活動の継続・拡充を図りたい。また、学生ボランティアをはじめとした担い手の確保・育成を進め、持続可能な運営体制の構築を目指す。
連携団体	地域図書館、熊本県子ども食堂ネットワーク	3町内婦人会の方々、ささえりあ、学園大学付属高校、県立大、熊本工業高校、尚絅短大の学生ボランティア、京塚繁栄会

熊本市地域婦人会連絡協議会食堂

団体名	かわしり食堂	川口地域食堂
活動を始めるきっかけ/活動概要	実施回数：25回　参加人数：2,505名（こども957名・大人1,548名） 地域において、表面化しにくい貧困や孤立の課題を抱える児童・生徒の存在があることから、安心して食事ができる居場所づくりを目的として地域食堂を開設した。また、塾等に通うことが難しい児童・生徒を支援するため、学習支援活動を併設している。食事の提供や学習支援を通じて、子どもから高齢者まで幅広い世代が交流できる機会を創出し、地域のつながりづくりに取り組んでいる。	実施回数：23回　参加人数：1,195名（こども850名・大人345名） 地域のこどもたちが安心して過ごせる居場所づくりと、多世代交流の機会を創出することを目的として活動を開始した。食事の提供に加え、学習支援や体験活動を実施し、こどもから高齢者まで幅広い世代が交流できる場として運営している。地域とのつながりを深めながら、こどもたちの健やかな成長を支える取組を行っている。
重点的に取り組んだこと/成果	地域の伝統行事や季節に合わせた献立づくりに取り組み、食を通じて地域文化や習慣を次世代へ伝承する機会を設けた。また、学習支援や親子料理教室、防災訓練への参加など、多様な体験活動を実施し、子どもたちの学びや交流の機会の充実を図った。活動を通じて、食事のマナーや感謝の気持ちが育まれるとともに、参加者同士の交流が深まり、ひとり親家庭等からの相談につながるなど、地域における見守り・支援の場としての役割も果たしている。	学習支援や親子料理教室、防災訓練への参加など、食事提供にとどまらない体験型の活動を積極的に実施した。また、季節行事に合わせた特別メニューや交流企画を通じて、参加者同士の交流促進を図った。その結果、こどもたちの地域への関心が高まり、多世代間のつながりが深まるとともに、継続的に参加する利用者も増えている。
今後の課題・展開	より多くの子どもたちが利用できる環境づくりを進めるとともに、朝食支援の実施について検討していきたい。また、食材提供者への感謝の気持ちを育む食育活動や食事マナーの指導を充実させるほか、コロナ禍により中止しているリサイクル活動や手芸展を再開し、地域交流のさらなる活性化につなげていきたい。	食事提供を継続しながら、高齢者が参加しやすい交流の機会をさらに充実させていく必要がある。今後は、多世代が交流できるイベントの規模や内容を拡充し、地域住民がより気軽に参加できる場づくりを進めることで、地域コミュニティの活性化につなげていきたい。
連携団体	校区社協、校区の各種団体、校区の学校、小中学校のPTA	川尻校区婦人会、元三町自治会、JA熊本市

団体名	サードプレイス桜の会	
活動を始めるきっかけ/活動概要	実施回数：25回　参加人数：1,626名（こども1,139名・大人487名） 地域内に新興住宅地が増加し、子育て世帯やこどもの数が増える中、身近な場所に安心して集える居場所が必要とされたことから活動を開始した。学校や家庭以外の「第三の居場所」として、会食や交流活動を通じて地域住民同士のつながりを育むとともに、生活困窮世帯への支援や多世代交流を推進している。	
重点的に取り組んだこと/成果	会食の提供に加え、世代間交流を目的としたゲーム活動や、バケツ稲づくりなどの食育活動を実施した。また、活動を通じてこどもや高齢者の日常生活の様子を把握し、見守りの機会を創出している。継続的な運営により、2年間で延べ7,000人を超える参加があり、地域住民への認知度向上と利用者の定着につながった。	
今後の課題・展開	会食事業を継続しながら、学習支援や食育活動の充実を図るとともに、高齢者向けの交流機会を拡大していく。また、多世代が気軽に参加できる地域イベントを充実させ、地域交流の拠点としての機能をさらに強化していきたい。	
連携団体	元三町自治会、川尻校区社会福祉協議会、熊本県子ども食堂応援ネットワーク、フードバンクひのくに、JA熊本市女性部	

(4)フードバンクに関する活動

団体名	社会福祉法人南苑会　フードバンク熊本	熊本県地域こども食堂支援センターTSUDOU・NET
活動を始めるきっかけ/活動概要	地域において支援を必要とする団体や世帯への食料支援を充実させるため、企業や一般家庭から寄贈された食品等を集約し、必要とする支援団体へ無償で提供する活動を行っている。社会福祉法人として保有する人的・物的資源を活用し、食品ロスの削減と地域福祉の向上を両立させる取組として運営している。	共働き世帯の増加やひとり親家庭、外国にルーツを持つ家庭など、地域を取り巻く環境が多様化する中で、こどもの孤食や家庭・地域の孤立が課題となっている。こうした状況を踏まえ、こども食堂や地域食堂、地域の居場所づくりに取り組む個人・団体を支援し、誰もが安心してつながれる地域づくりを推進することを目的として活動を開始した。現在は、県内のこども食堂等への物資支援や情報提供、運営支援をはじめ、地域ネットワークの構築や防災意識の啓発など、食堂運営を側面から支える活動を展開している。
重点的に取り組んだこと/成果	食品寄贈企業や賛助会員の確保に重点的に取り組み、支援体制の強化を図った。その結果、新たな寄贈企業との連携が実現したほか、多くの団体から賛助会費への協力を得ることができ、活動の安定的な運営につながった。また、継続的な食品提供を通じて、各種支援団体の活動を支える基盤の充実に寄与した。	物価高騰の影響を受けるこども食堂への支援強化に重点的に取り組んだ。特に、県内の会員食堂を個別に訪問し、米をはじめとする支援物資を届けるとともに、運営者から直接課題やニーズを聞き取ることで、現場の実態把握を行った。また、地域ごとのネットワーク形成を支援した結果、各圏域における食堂間の連携が進み、情報共有や相互支援の体制づくりにつながった。さらに、民間企業との協力体制を拡充し、新たなフードドライブの仕組みを構築することで、継続的な食材提供体制の充実を図ることができた。
今後の課題・展開	今後は冷蔵・冷凍設備の充実により、取扱可能な食品の種類や量を拡大するとともに、食品提供者のさらなる開拓を進めていく。併せて、支援を必要とする団体とのネットワークを強化し、より多くの団体へ安定的に食品を届けられる体制づくりを目指したい。	こども食堂を取り巻く環境は依然として厳しく、食材や運営資金の確保、人材不足への対応などが課題となっている。今後は地域ごとの支援拠点の充実を図るとともに、市町村単位でのネットワークづくりをさらに推進し、食堂同士が支え合える体制の強化に取り組む。また、法人化を契機とした財源確保の多様化を進めるほか、県域を超えた団体との連携を強化し、災害時にも相互に支援できる広域的なネットワークの構築を目指す。
連携団体	行政・支援団体・企業	各地公体、庁内自治会、児童民生委員、県市町村社協、小中学校、各学校・大学のボランティアセンター、警察OBの会、ささえりあ、JICA熊本等